



會計補助台帳



Salesforce.org およびそのロゴは Salesforce.com, inc. の登録商標です。ここに記載されたその他の名称は、Salesforce.com またはそれぞれの所有者の商標です。

目次

会計補助台帳.....	1
会計補助台帳の基本.....	1
会計補助台帳によるこそ: CRM から財務へ.....	1
会計補助台帳を使い始める.....	4
会計補助台帳のデータフロー.....	5
会計補助台帳の実装計画.....	5
会計補助台帳の開発者リソース.....	7
会計補助台帳の用語.....	7
会計補助台帳および翻訳.....	9
会計補助台帳の従来のドキュメント.....	14
会計補助台帳の設定.....	15
会計補助台帳ユーザーの追加.....	15
会計補助台帳のデータパイプラインの設定.....	16
会計補助台帳の権限セットの割り当て.....	17
会計補助台帳および Salesforce のリリースの最新情報の確認.....	18
会計補助台帳の取引仕訳レコード.....	18
会計補助台帳の取引仕訳項目.....	19
ソースレコードの適格性.....	21
会計状態およびデータ生成.....	22
借方と貸方.....	23
GL コード.....	23
収益と費用.....	25
取引仕訳レコードのページレイアウトの設定.....	26
支払方法.....	28
キャッシュフローのグループ化.....	29
会計項目の対応付け.....	30
会計セット.....	31
会計セットのオブジェクトモデル.....	32
ソースデータの会計セットへの対応付け.....	34
会計セット設定の定義.....	37
会計項目の対応付けの作成.....	40
会計セットの管理.....	41
主オブジェクトレコードの削除またはマージに関する考慮事項.....	42
会計セットの例の設定.....	43
会計補助台帳ジョブ.....	57

会計補助台帳ジョブの入力および影響.....	58
取引仕訳の作成の有効化.....	59
Flow Builder を使用した会計補助台帳ジョブのスケジュール.....	60
会計補助台帳ジョブのスケジュールに関する考慮事項.....	61
会計補助台帳ジョブの手動実行.....	62
会計補助台帳のデータの調整.....	63
支払レコードと費用レコードの調整種別.....	63
割り当ての更新に関する考慮事項.....	67
会計補助台帳のデータのエクスポート.....	68
会計データの転送方法.....	68
レポートビルダーを使用した会計データのエクスポート.....	70
会計補助台帳の制限.....	71

会計補助台帳

会計補助台帳で Salesforce CRM と各自の会計システムのデータが統合されるため、会計部門の業務がはかどります。こうした統合により、資金をどこで、どのように受領し、支払い、割り当てたのかを把握しやすくなります。

会計補助台帳の基本

資金調達および財務業務のために、支援の収益や支払の一貫したデータを準備します。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来のドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

会計補助台帳によろこそ: CRM から財務へ

記録を管理する会計チームに整然とパッケージ化された財務 CRM データを提供します。

表 1: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

財務インサイトの重要性の増大

Salesforce 内で財務情報を取得したときに、会計士、リーダーシップチーム、その他の人と共有して、共有相手が財務報告標準に準拠した正確な最新情報に基づいて行動できるようにする必要があります。また、企業や機関の財務状況の全体像をとらえ、現在の立ち位置を認識し、情報に基づく判断を下したいと考えます。

収益や費用の情報源が限られている場合でも、この目的を達成するのは容易なことではありません。ですから、さまざまな送受信ストリームを監視しなければならないような場合には、とてつもなく困難になります。通常は、それぞれの部門が資金を記帳して追跡する独自のプロセスやタイムラインを利用しています。そのため、財務管理に関与していない Salesforce システム管理者には、バックオフィスで各種の資金勘定への割り当てがどのよう

に行われているのかさっぱりわからないことがあります。他方、会計チームの側でも通常とは異なるデータや不完全なデータを受け取れば、その内容を解明しなければならず、毎月帳尻を合わせるのに苦労します。つまり、財務チームや会計チームは収益を効率的に予測する必要があるので、ビジネスの可視性が限られ、プロセスがサイロ化しているために予測が困難になっています。

会計部門とその他の部門の溝が広がり続ける中で、こうした溝を埋めるのが会計補助台帳で、チームが次の機能を活用できます。

- 財務や会計とのコミュニケーションや連携を向上させる。
- 財務データに基づくインサイトにアクセスして業務に活かす。
- コンプライアンスを維持しながら、リソースを最大限に活用し、財務面へのインパクトを高める計画を練る。
- 正確かつ最新の財務予測を参考に、財務面の課題を見極めて対処する。
- Salesforce レコードを基に借方と貸方を生成し、各自の会計システムにエクスポートできるように自動的に書式設定する。

会計補助台帳では現金主義会計と発生主義会計がサポートされています。現金主義会計では、資金の受領または支払が実際に行われた時点で記帳します。発生主義会計では、資金が確定した後、つまり、資金の支払について法的拘束力のある約束がなされた後に記帳します。どちらの場合も、会計の初期情報を記帳し、変更が生じた時点で調整します。

資金勘定の割り当ては、必要であれば支払まで細かく設定します。1つの支払を割り当てで分割する場合、別々のレコードを作成する必要はありません。また、費用データも追跡します。

では、いくつかの機関が会計補助台帳をどのように使用しているのか見てみましょう。

高等教育の観点

会計補助台帳を使用して、大学の会計プロセスを拡大します。

Astro University の Salesforce システム管理者である Maria は、Salesforce で次のような収益取引や費用取引を追跡しているキャンパス内の各チームに対応しています。

- 出願料
- 推進活動
- ライセンス収入
- 奨学金資金
- 学生サービス

各チームは Salesforce でデータを生成し、その情報を収集して整理し、書式設定するサードパーティシステムに手動でエクスポートしています。エクスポートには数十種のスプレッド

シートが使用され、データの体裁を整えて会計部門と共有できるようにするまでにいくつものステップや修正を要します。

会計部門が資金を適切に把握して割り当てるためには、このすべての情報が欠かせないことを Maria は認識しています。けれども、同大での Salesforce の使用が広がるにつれ、こうした手動のプロセスにばらつきが生じ、対処しにくくなっています。チームは財務データを各種のシステムに完璧な方法で入力しようと膨大な時間を費やしています。

同僚がすでに多くの仕事を抱えていることを認識している Maria は、同僚のために何か自分にできることはないかと考えます。春休み中にたまたま視聴した Trailhead Live が会計補助台帳に関する Web セミナーで、大学の会計プロセスを拡大できるソリューションが取り上げられていました。Maria はこの Web セミナーで次のことを知りました。

- チームが Salesforce 内で借方と貸方を生成できる! データを会計部門に転送する前に、個々のスプレッドシートを使用して手動でエクスポートやデータ調整する必要がなくなる。
- 会計セットを使用すれば、標準またはカスタムオブジェクトに保存されている CRM の財務情報が、会計処理に準じた書式に対応付けられる。
- 会計項目の対応付けを使用すると、システム管理者はデータを 1 回だけ書式設定すれば、必要なだけいくつでも会計システムに対応付けることができます。

Maria は早速 Salesforce のスマートな機能を利用して会計補助台帳をキャンパスに導入し、学内のさまざまな職務の連携を向上させることにします。

資金調達の観点

会計補助台帳を使用して、非営利団体の資金調達タスクを管理します。

Learning Empowerment という非営利の教育支援団体で上級会計士を務める Sam は、財務に関する内部業務を統括しています。Sam の日常業務は、会計に関する質問に答えること、支払や請求の必要書類を揃えること、そして一番重要なのが同団体の台帳を管理することです。

Learning Empowerment の成長に伴い、こうした業務が増大し、複雑さが増しています。現在では 3 つの州の 20 の拠点で障害者への支援サービスを行っています。Sam の仕事も、無理なくこなせる手動の会計処理から、息つく暇もないほど多忙な状態へと変化しています。

今では 3 州の要件や規制に翻弄されながら、多額の支援や資金に対処しています。また、資金調達チームに問い合わせる時間も増え、特に月末の調整に時間がかかっています。資金調達チームが多忙を極めていることを知っているため、相手を煩わせたくないと思いつつ、質問をしないわけにはいきません。

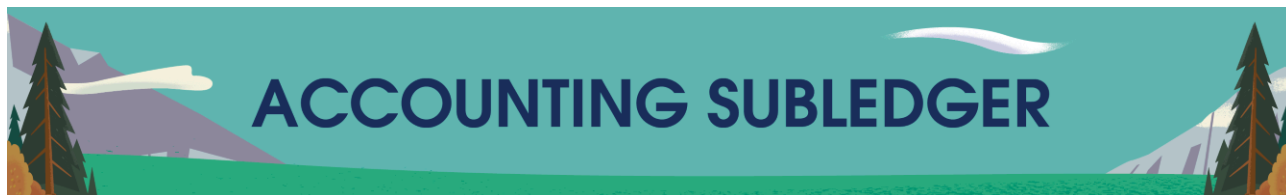
そんな中 Learning Empowerment の Salesforce システム管理者が会計補助台帳を導入したため、希望が見えてきました。資金調達チームが今までどおり支援を入力すると、Salesforce によって夜間に会計レコードが自動的に生成されます。そのうえ、レコード




が複式簿記に対応する標準の仕訳書式になっています!つまり、Sam が別の会計システムに支援を手動で入力し直す必要がなくなります。会計レコードが最小限のデータ操作でサードパーティの会計ソフトウェアに送信されるように設計されています。




これまで Sam は月々の業務時間の 3 分の 1 以上を帳尻合わせに費やしてきました。導入から 2 か月経った今、Sam の業務の中心は同僚やボランティアを助けることになっています。定期的に Salesforce の会計レコードをエクスポートして、会計ソフトウェアにインポートします。さらに、IT 部門と協力して、自動インテグレーションの設定にも取り組んでおり、実現すればさらに時間に余裕ができます。先頃 Learning Empowerment が 4 つ目の州に拠点を展開することを発表しました。Sam は準備万端であるだけでなく、この新たな任務を待ち望んでいます!

会計補助台帳を使い始める

Education Cloud および Nonprofit Cloud の会計補助台帳を使用して、財務部門向けの Salesforce レコードを準備できます。会計補助台帳は、CRM からトランザクションを取得して、このデータを会計処理に対応した形式で調整します。トライアル組織で試しながら、会計補助台帳の内容や推奨される設定、実装への準備方法などを学習してください。



 <p>操作の開始 会計補助台帳とは?</p>	 <p>初級: 推奨される主要な機能について学習する</p> <p>トランザクションジャーナルレコードにトランザクションデータを格納する</p> <p>会計セットを使用して財務データに対応付ける</p> <p>会計項目の対応付けの作成</p> <p>会計補助台帳ジョブをスケジュールする</p>	 <p>中級: 特定のビジネスニーズ向けの機能について学習する</p> <p>募集および入学者選考に関する料金用の会計セットの設定</p> <p>Revenue Cloud 向けの会計セットの設定</p>
---	--	---

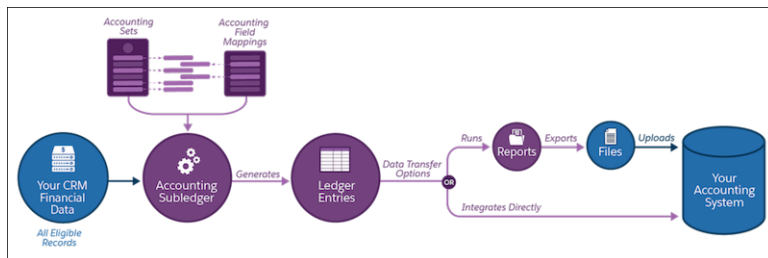
 <p>上級: 追加の機能とアドオンについて学習する</p> <p>会計補助台帳のデータをエクスポートする</p> <p>会計補助台帳のデータを調整する</p>	 <p>実装の準備</p> <p>会計補助台帳の設定</p> <p>データ保護とプライバシー</p>	 <p>リソースとヘルプについて</p> <p>Trailhead: Accounting Subledger for Education Quick Look (教育機関向けの会計補助台帳の概要)</p> <p>Accounting Subledger Developer Guide (会計補助台帳開発者ガイド)</p> <p>会計補助台帳 Trailblazer Community</p>
---	---	---

会計補助台帳のデータフロー

会計補助台帳では、Salesforce CRM の財務データと各自の会計システムのデータが統合されます。

表 2: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition



1. Salesforce ではあらゆる財務データ (チケット収入、購入費用、支援、確約など) がキャプチャされます。
2. 会計補助台帳 (会計セット、会計項目の対応付け、スケジュール済みジョブなど) を設定すると、対象となるすべてのレコードに対する取引仕訳レコードが作成されます。
3. これで、レポート、カスタムインテグレーション、ミドルウェアソリューションを使用して、データを各自の会計システムに取り込むことができます。

会計補助台帳の実装計画

実装を成功させるために必要な一般的な手順について説明します。

表 3: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience

使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

すべて順調に進み、会計補助台帳の実装が承認されました。実装は大変な作業のように思えるかもしれませんが、そうでもありません! 以下は、一般的な考慮事項です。

1. ユーザーを追加する: 企業または機関の誰が会計補助台帳にアクセスして使用および管理するかを決定します。「[会計補助台帳ユーザーの追加](#)」を参照してください。
2. データパイプラインを設定する: 1人以上の有効なユーザーを「データパイプラインベースユーザー」権限セットに割り当てて、データパイプラインを有効にします。「[会計補助台帳のデータパイプラインの設定](#)」を参照してください。
3. 権限を設定する: 誰が何をできるのかを指定します。たとえば、会計士は生成された会計データを表示できるが、会計セットの財務データの対応付けはできないようにします。[会計補助台帳の権限セットの割り当て](#)。
4. カスタム項目を作成する: 取引仕訳オブジェクトでデフォルトの項目以外の会計データを生成するには、そのオブジェクトにカスタム項目を追加します。「[カスタム項目の作成](#)」を参照してください。
5. 会計補助台帳を設定する: 会計セットを使用して、財務データを会計補助台帳データモデルに対応付けます。また、ページレイアウトを設定して、Salesforce で会計データを生成して分割する方法を指定します。取引仕訳レコードでカスタム項目を追加した場合は、データをこれらの項目にコピーするように会計項目の対応付けを設定してください。取引仕訳レコードでカスタム項目を追加した場合は、データをこれらの項目にコピーするように会計項目の対応付けを設定してください。会計チームや財務チームと相談して、そのすべてのニーズに対処することをお勧めします。「[会計補助台帳の取引仕訳レコード](#)」および「[会計セット](#)」を参照してください。
6. 会計データの生成をオンにする: 最初に Sandbox で設定をテストします。問題なければ、取引仕訳の作成を有効にして、会計補助台帳ジョブをスケジュールします。「[会計補助台帳ジョブ](#)」を参照してください。
7. データを統合する: Salesforce で会計データが生成されたら、そのデータを会計システムに取り込みます。このデータを使用してレポートを作成し、CSV ファイル形式でエクスポートしたものを会計システムにインポートします。カスタムインテグレーションを開発したり、ミドルウェアソリューションを使用することもできます。法的な問題により、会計補助台帳で自動転記が行われることはありません。「[会計データの転送方法](#)」を参照してください。

推奨の設定や対応付けの演習については、『[Accounting Subledger Implementation Planning Guide \(会計補助台帳実装計画ガイド\)](#)』および「[会計セットの例の設定](#)」を参照してください。

会計補助台帳の開発者リソース

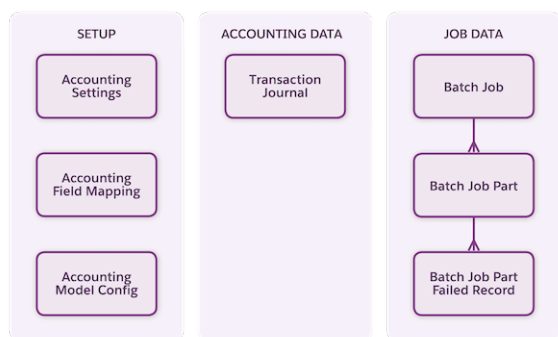
会社や機関の開発者は、開発者リソースを活用して、データモデルや自動化プロセスについて学習できます。

表 4: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

会計補助台帳のオブジェクトと項目についての詳細は、『[Accounting Subledger Developer Guide \(会計補助台帳開発者ガイド\)](#)』を参照してください。

会計補助台帳エンティティリレーションダイアグラム



会計補助台帳の用語

Salesforce ユーザーが会計の概念に馴染みがないことがあります。ここで会計補助台帳で使用する基本的な用語を確認しておきましょう。

表 5: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

発生主義会計

実際の受領や支払を待たずに、収益や費用が発生した時点または約束された時点で信義に基づいて計上する会計処理。支払が支払済とマークされたとき、またはソースレコードが確定済みとマークされたときに、支払が収益として計上されます(現金主義会計も参照)。

調整

収益または費用の以前のレコードへの変更を表す借方金額または貸方金額。

割り当て (指定または資金)

特定の用途のために留保された資金を追跡する資金勘定。資金を収益または費用として計上するときに、割り当てを使用してその資金を1つ以上の資金勘定に分割できます。

現金主義会計

収益を受領した時点または費用を支払った時点で収益や費用を計上する会計処理。支払が支払済とマークされたときに、支払が収益として計上されます。支払が約束されたが、まだ支払われていないものは計上されません（発生主義会計も参照）。

借方と貸方

取引に基づく活動を表す総勘定元帳の左右の科目。資産は借方列では加算され、貸方列では減算されます。収益は貸方列では加算され、借方列では減算されます。どの台帳でも借方と貸方の合計金額が必ず等しくなります。

複式仕訳帳

会計活動の台帳で、日付、勘定、金額のほか、各取引が借方か貸方かなどを記入する。左側が借方、右側が貸方です。

資金勘定

会計システムの特定の財務勘定で、通常は CRM にデータを入力するエンドユーザーが認識可能な一意のコードと一意の資金名で識別される。

総勘定元帳 (GL)

組織の主要な財務活動記録で、資金のあらゆる入金、出金、内部移動の移動元と移動先を追跡する。

GL コード

取引の発生元と対象を示す総勘定元帳の表示レベル（一般資金、現金、未収確約など）。

支払

会計補助台帳で支払済と認識されるキャッシュフローの動き。ソースレコードの対応するチェックボックスがオンになります。

返金

負の金額の支払。

収益

受領した資金（約束または受領した支払や支援など）。

収益または費用の状態: 確定済み

約束され、受領予定の収益または費用。一部が支払われていることもあります。

収益または費用の状態: 受領済み

受領している収益または費用。

逆仕訳

調整を適用するために会計補助台帳で作成される負の取引仕訳レコード。逆仕訳は、元の取引仕訳と同じ値ですが、元の値が正の場合は負、負の場合は正になります。たとえば、複数の割り当てがある US\$1000 の支払を逆仕訳する場合、会計補助台帳で合計金額が -\$1000 となる複数の取引仕訳レコードが作成されます。

ソースレコード

Salesforce で作成またはインポートした取引を表すオブジェクトレコード。このレコードを会計セットに対応付けて、会計補助台帳を実行すると、対象となる取引の取引仕訳レコードが作成されます。

取引仕訳

仕訳エントリと同様の会計補助台帳オブジェクト。取引仕訳レコードは、会計報告および会計システムでの使用を意図する収益と費用の入出金のスナップショットで、消去できません。

会計補助台帳および翻訳

Salesforce では、会計補助台帳の翻訳を複数の言語で提供しています。

表 6: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

よくある質問 (FAQ)

頻度、言語、ドキュメントなど、ローカリゼーションに関する質問への回答を取得します。

Salesforce.org 製品はどれぐらいの頻度でローカライズされますか？

製品の表示ラベルとテキストは、季節ごとのメジャーリリースの一環として毎回ローカライズされます。

どの言語にローカライズされますか？

Salesforce.org のローカライズは製品単位ではなく、パッケージ単位で行われるため、ローカライズ言語は異なります。「[使用可能な言語](#)」を参照してください。Salesforce は、完全サポート言語、エンドユーザー言語、およびプラットフォーム専用言語の 3 つのレベルの言語サポートを提供します。詳細は、「[サポート言語](#)」を参照してください。

製品ドキュメントはローカライズされますか？

現在、Accounting Subledger、Accounting Subledger Legacy、Case Management、Education Cloud、Education Data Architecture (EDA)、Grants Management、Insights Platform Data Integrity、Marketing Cloud Engagement for Industries、Nonprofit Cloud、Nonprofit Success Pack (NPSP)、Outbound Funds Module、Program Management Module (PMM)、Student Success Hub (SSH) の各製品のドキュメントがローカライズされています。詳細は、「[使用可能な言語](#)」を参照してください。ドキュメントへのリンクについては、「[ローカライズされたドキュメント](#)」を参照してください。

誤訳または訳抜けを見つけました。どこに報告すればよいですか？

翻訳の更新が行われるのはメジャーリリースのみのため、マイナーリリース後には適用されていない場合があります。誤訳を報告するには、トピックを「設定とセキュリティ」、カテゴリを「グローバル化およびローカライゼーション」に設定して[ケースを作成](#)してください。

翻訳を上書きすることはできますか？

もちろんです。トランスレーションワークベンチを使用して翻訳を上書きできます。詳細は、「[トランスレーションワークベンチ](#)」を参照してください。

言語と地域の違いは何ですか？

Salesforce には、言語と地域の両方の設定があります。地域によって、日時、住所、電話番号、数値のカンマとピリオドの表示形式が決まります。言語によって、オブジェクト、項目、設定、ユーザーインターフェースのテキストが表示される言語が決まります。

コミュニティからの翻訳を受け入れていますか？

Salesforce 製品の多くはオープンソースですが、現在、ローカライゼーションに貢献する GitHub プルリクエストは受け入れていません。ローカライゼーションプロセスには、コミュニティ貢献者にとって現実的でも持続可能でもないレベルのメンテナンスが要求されるため、Salesforce 独自のローカライゼーションプログラムを使用して適時、質の高い翻訳を提供しています。

使用可能な言語

Nonprofit Cloud Education Cloud Accounting Subledger Accounting Subledger Legacy で使用可能な言語のリストを参照してください。

Salesforce.org は、次の言語への翻訳を提供しています。ユーザー（または組織全体）の設定中にいずれかの使用言語を選択すると、Nonprofit Cloud Education Cloud Accounting Subledger Accounting Subledger Legacy のオブジェクト、項目、設定、ユーザーインターフェースのテキストがその言語で表示されます。

Accounting Subledger

「[Salesforce でサポートされる言語](#)」を参照してください。

言語	UI (管理者)	ドキュメント
中国語 (簡体字)	√	√
中国語 (繁体字)	√	√
デンマーク語	√	√
オランダ語	√	√
英語	√	√
フィンランド語	√	√

言語	UI (管理者)	ドキュメント
フランス語	√	√
ドイツ語	√	√
イタリア語	√	√
日本語	√	√
韓国語	√	√
ノルウェー語	√	√
ポルトガル語 (ブラジル)	√	√
ロシア語	√	√
スペイン語	√	√
スペイン語 (メキシコ) 顧客定義の翻訳のデフォルトはスペイン語	√	√
スウェーデン語	√	√
タイ語	√	

Accounting Subledger Legacy

言語	UI	ドキュメント
カタロニア語	√	√
オランダ語	√	√
英語 (英国)	√	√
フィンランド語	√	√
フランス語	√	√
ドイツ語	√	√
日本語	√	√
スペイン語	√	√
スペイン語 (メキシコ)	√	√

Education Cloud

「Salesforce でサポートされる言語」を参照してください。

Nonprofit Cloud

「Salesforce でサポートされる言語」を参照してください。

ローカライズされたドキュメント

他の言語のドキュメントへのリンクを取得します。

次のリンクから、使用可能な各言語のローカライズされたドキュメントにアクセスできます。

Accounting Subledger

- [カタロニア語](#)
- [中国語 \(簡体字\)](#)
- [中国語 \(繁体字\)](#)
- [デンマーク語](#)
- [オランダ語](#)
- [英語 \(英国\)](#)
- [フィンランド語](#)
- [フランス語](#)
- [ドイツ語](#)
- [イタリア語](#)
- [日本語](#)
- [韓国語](#)
- [ノルウェー語](#)
- [ポルトガル語 \(ブラジル\)](#)
- [ロシア語](#)
- [スペイン語 \(スペイン\)](#)
- [スペイン語 \(メキシコ\)](#)
- [スウェーデン語](#)

Accounting Subledger Legacy

- [カタロニア語](#)
- [オランダ語](#)
- [英語 \(英国\)](#)
- [フィンランド語](#)
- [フランス語](#)
- [ドイツ語](#)

- 日本語
- スペイン語 (スペイン)
- スペイン語 (メキシコ)

Education Cloud

- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- デンマーク語
- オランダ語
- フィンランド語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ノルウェー語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- ロシア語
- スペイン語 (スペイン)
- スペイン語 (メキシコ)
- スウェーデン語

Nonprofit Cloud

- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- デンマーク語
- オランダ語
- フィンランド語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語

- [韓国語](#)
- [ノルウェー語](#)
- [ポルトガル語 \(ブラジル\)](#)
- [ロシア語](#)
- [スペイン語 \(スペイン\)](#)
- [スペイン語 \(メキシコ\)](#)
- [スウェーデン語](#)

言語の有効化

Nonprofit Cloud Education Cloud Accounting Subledger Accounting Subledger Legacy 製品の Salesforce でのローカリゼーションを有効にします。

次の手順を実行し、Nonprofit Cloud Education Cloud Accounting Subledger Accounting Subledger Legacy で使用する言語を有効化することをお勧めします。

1. 翻訳言語を使用する前に、[設定] でトランスレーションワークベンチを有効化してください。詳細は、「[トランスレーションワークベンチの有効化または無効化](#)」を参照してください。
2. プラットフォーム専用言語 (Catalan など) を有効にする場合、次の手順を実行します。
 - a. [設定] で [プラットフォーム専用言語を有効化] を検索して選択します。
 - b. 目的の言語を [表示言語] リストに移動します。
 - c. 変更内容を保存します。

会計補助台帳の従来のドキュメント

2023 年 3 月、Salesforce は統合プラットフォームソリューションと管理パッケージを備えた Salesforce for Education を発売します。この記事では、会計補助台帳というプラットフォームソリューションについて説明します。

管理パッケージ製品の詳細は、[会計補助台帳に関する従来のドキュメント](#)を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

会計補助台帳の設定

会計補助台帳を設定して実行する前に、必須の設定タスクを完了します。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来ドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

会計補助台帳ユーザーの追加

ユーザーを表すプロファイルとユーザーを設定します。

表 7: 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
ユーザーを作成する	内部ユーザーの管理

会計補助台帳ユーザーは通常、次のいずれかのカテゴリに該当しますが、別の方法でユーザーを分類することも可能です。

Salesforce システム管理者

会計セットの管理や会計補助台帳の設定などのタスクのためにデータを作成、更新する「編集」アクセス権を必要とします。

会計マネージャー

システム管理者が生成した取引仕訳レコードなどのデータを確認する「参照のみ」アクセス権を必要とします。

必要なユーザーの種別を決定したら、[設定] で Salesforce または Salesforce Platform ユーザーライセンスを使用してユーザーを作成します。

関連情報:

- [1 人のユーザーの追加](#)

会計補助台帳のデータパイプラインの設定

会計補助台帳のデータパイプラインを有効にするための要件を満たします。

表 8: 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
権限セットを割り当てる	権限セットの割り当て および ビューの設定と定義
データパイプラインを有効化する	「データパイプラインベースユーザー」権限セット および システム管理者プロファイル

会計補助台帳の会計セットは、データ処理エンジンを活用して会計データを生成します。データ処理エンジンを使用するには、1人以上の有効なユーザーを「データパイプラインベースユーザー」権限セットに割り当て、データパイプラインをオンにします。そのユーザーは会計セットを管理したり、フローや呼び出し可能アクションを使用して会計補助台帳ジョブを実行したりすることができます。

ユーザーを「データパイプラインベースユーザー」権限セットに割り当てる

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「権限セット」と入力し、[権限セット] を選択します。
2. [データパイプラインベースユーザー] をクリックします。
3. [割り当ての管理] をクリックして、[割り当てを追加] をクリックします。
4. 権限セットに割り当てるユーザーの名前の横にあるチェックボックスをオンにして、[割り当て] をクリックします。
5. 変更内容を保存します。

会計補助台帳のデータパイプラインを有効にする

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「データパイプライン」と入力し、[開始] を選択します。
2. [データパイプライン] をオンにします。

「データパイプラインベースユーザー」権限セットを割り当てた後、[設定]に[データパイプライン]が表示されない場合は、ブラウザタブを更新します。「[データパイプラインの有効化](#)」を参照してください。

会計補助台帳の権限セットの割り当て

権限セットをユーザーに割り当てて、基本ユーザーライセンスに付属しない機能にもユーザーがアクセスできるようにします。

表 9: 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
権限セットを割り当てる	権限セットの割り当て および ビューの設定と定義



ヒント

選択可能な権限セットライセンスを表示するには、[設定]の[クイック検索]ボックスに「会社の設定」と入力し、[組織情報]を選択します。

- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザー」と入力し、[ユーザー] を選択します。
- ユーザーをクリックします。
- [権限セットの割り当て] セクションで、[割り当ての編集] をクリックします。
- 次の権限セットを追加します。

権限セット	説明	推奨されるユーザー
会計補助台帳 Growth へのアクセス	会計補助台帳の機能にアクセスして使用します。	取引仕訳レコードに対する「参照」アクセス権のみを必要とするユーザー
データパイプラインベースユーザー	データパイプラインベースの機能を使用します。	取引仕訳レコードを生成する処理タスクへのアクセス権を必要とするユーザー
会計補助台帳の管理	会計補助台帳の機能にアクセスして管理します。	会計セットの設定などの設定タスクのために Salesforce オブジェクトへのフルアクセスを必要とするユーザー

権限セット	説明	推奨されるユーザー
会計補助台帳ジョブの実行	会計補助台帳ジョブを実行します。	取引仕訳レコードを生成する処理タスクへのアクセス権を必要とするユーザー

5. 変更内容を保存します。

会計補助台帳および Salesforce のリリースの最新情報の確認

製品の更新とリリーススケジュールの最新情報を確認します。

表 10 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

システム管理者の醍醐味は、Salesforce を使用して、組織が活動目的を達成できるようにすることです。会計補助台帳のリリースの最新情報を確認して、企業または機関で使用可能な新機能をいち早く把握します。

「[Education Release Readiness](#)」グループや「[Nonprofit Release Readiness](#)」グループで、予定されているリリース準備状況の Web セミナーを確認したり、コミュニティメンバーから助言を受けたり、リリースノートへのリンクを見つけたりします。

各リリースについての詳細は、「[Salesforce.org リリースノート](#)」を参照してください。

「[Salesforce リリースへの準備](#)」もご確認ください。

会計補助台帳の取引仕訳レコード

会計補助台帳の中核をなすのが取引仕訳オブジェクトで、財務取引が会計システムへのエクスポートに適した書式で保存されます。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来ドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

会計補助台帳の取引仕訳項目

取引仕訳オブジェクトには、各自の財務取引に関連して生成されたデータの理解に役立つ複数の項目があります。CRMの財務レコード(このドキュメントではソースレコードともいう)が新規作成または変更されると、会計補助台帳で取引仕訳レコードが自動的に生成されます。

表 11: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

仕訳種別

取引仕訳レコードの [仕訳種別] 項目では、仕訳が割り当て、支払、取引のいずれであることを示します。



注意

誤処理を避けるために、仕訳種別を編集または削除しないことをお勧めします。

割り当て

期待収益または期待費用の具体的な金額を表します。たとえば、確定済みの支援のスケジュールされた支払は期待収益とみなされます(確約ということもあります)。レコードが確定または約束されると、会計補助台帳で、確定された収益の特定の金額のレコードに関連する資金勘定ごとに割り当て仕訳レコードが1つ作成されます。こうしたレコードが作成されるのは、まず確約され、支払が後から行われる金額に対してのみです。すぐに支払われる金額に対しては作成されません。

取引

支払済レコードの割り当てされていない全額を表します(確約された期待金額ではありません)。会計補助台帳では、支払済とマークされたレコードごとに取引仕訳レコードが1つ作成されます。ただし、関連付けられている会計セットに資金別のキャッシュフローのグループ化を設定した場合を除きます。この場合は、取引仕訳レコードが作成されません。この仕訳種別は、レコードの資金勘定割り当てに関連付けられません。

支払

支払済レコードの資金勘定別の割り当て額を表します(確約された期待金額ではありません)。会計補助台帳では、支払済とマークされた各レコードの資金勘定割り当てごとに支払仕訳レコードが1つ作成されます。ただし、関連付けられている会計セットに資金別のキャッシュフローのグループ化を設定した場合を除きます。この場合は、支払済とマークされた各レコードの各資金勘定の割り当てに支払仕訳レコードが2つ(借方と貸方)作成されます。

借方および貸方の取引種別や支払種別の仕訳レコードの作成についての詳細は、「[キャッシュフローのグループ化](#)」を参照してください。

金額

[借方金額] 項目と [貸方金額] 項目を使用して、取引仕訳レコードの金額を追跡できます。

日付

会計補助台帳には次の日付項目があり、その一部は取引仕訳オブジェクトに存在します。

確定日

レコードが確定された日付を表すソースレコードの項目。Salesforce ではこの日付が、[期待収益/費用を生成] に対応付けられているソースレコードのチェックボックスがオンになった日に設定されます。この選択により、レコードを期待収益または費用として処理を開始するよう会計補助台帳に指示します。

期日 (取引仕訳)

関連付けられている会計セットで期日別のキャッシュフローのグループ化を有効にした場合にのみ、割り当て種別の仕訳レコードにこの日付が入力されます。収益または費用の到着予定日を示し、関連レコードの予定日からコピーされます。

支払日 (取引仕訳)

関連レコードが支払済とマークされた日付で、関連付けられている会計セットの [支払日] に対応付ける項目に示されます。

取引日 (取引仕訳)

収益または費用が最初に期待、受領、調整された日付。割り当て種別の仕訳レコードの場合、次の変数によって取引日が決まります。

- 関連レコードの確定日が現在の日付以前で、取引仕訳レコードが存在しない場合、取引日は確定日に設定されます。
- 関連レコードの確定日が現在の日付以前で、取引仕訳レコードが存在する場合、取引日は現在の日付に設定されます。
- 関連レコードの確定日が将来の日付の場合、取引日は現在の日付に設定されます。

デフォルトで、取引仕訳レコードの取引日はレコードの作成日に対応し、会計補助台帳ジョブが実行された日になります。別の取引日を使用する場合は、ソースレコードの日付項目を、関連付けられている会計セットの [取引日] 項目に対応付けます。たとえば、取引活動自体の日付を使用できます。「[会計セット](#)」を参照してください。

独自の取引日に対応付ける場合、支払済の収益/費用と期待収益/費用の取引日は次のように設定されます。

収益または費用の種別	条件	取引仕訳レコードの取引日	条件を満たさない場合の取引日
支払済	ソースレコードの取引日が入力される。	ソースレコードの取引日を使用する。	現在の日付を使用する。
支払済または期待	ソースレコードの取引日が入力されない。	現在の日付を使用する。	-
支払済または期待	会計セットに [取引日] 項目に対応付けられている日付がない。	現在の日付を使用する。	-
期待	[期待収益/費用を生成] に対応付けられているソースレコードのチェックボックスがオンになっている。	確定日を現在の日付と比較し、確定日が現在の日付以前の場合は、確定日を取引日として使用する。	ソースレコードの取引日を使用する。

カスタム項目

デフォルトの取引仕訳オブジェクトにない項目からの財務情報に基づいて報告する必要がある場合は、カスタム項目を作成してそのオブジェクトおよびそのページレイアウトに追加し、会計項目の対応付けを設定します。

「[取引仕訳レコードのページレイアウトの設定](#)」および「[会計項目の対応付け](#)」を参照してください。

ソースレコードの適格性

会計補助台帳では、対象条件を適用して処理するソースレコードを選択します。

表 12 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

会計補助台帳では、会計セットで定義した条件のみに基づいてソースレコードが考慮されません。続いて、次の表で示している対応付けと項目の要件を満たすソースレコードの取引仕訳レコードが生成されます。支払済または取消済のレコードが後で変更された場合は、取引仕訳レコードが更新されます。「[会計セット設定の定義](#)」および「[金額の修正](#)」を参照してください。



注意

金額項目は会計セットに対して選択されたオブジェクトモデルに依存するため、すべての項目が適用されるわけではありません。

ソースレコードの条件	対応付けられるソースレコードの項目
[支払済] に対応付けられているチェックボックスがオンである。	<ul style="list-style-type: none"> 資金名 支払方法 (必須ではないが推奨) 支払日 対応付けられているすべての金額項目: <ul style="list-style-type: none"> 資金勘定割り当て金額 全体の金額 支払/費用勘定
[取消済] に対応付けられているチェックボックスがオンである。	<ul style="list-style-type: none"> 資金名 支払日 対応付けられているすべての金額項目: <ul style="list-style-type: none"> 資金勘定割り当て金額 全体の金額 支払/費用の金額
[期待収益/費用を生成] に対応付けられているチェックボックスがオンである。	<ul style="list-style-type: none"> 支払予定日 対応付けられているすべての金額項目: <ul style="list-style-type: none"> 資金勘定割り当て金額 全体の金額 支払/費用の金額

不完全または不正確な結果にならないように、ソースレコードの編集時に上記のデータ要件を適用する独自の入力規則を作成することを検討してください。

会計状態およびデータ生成

会計補助台帳では、取引仕訳レコードの生成時にソースデータの会計状態が検討されます。

表 13 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

確定済み

収益または費用の支払が期待され、1 回以上の残りの支払を待っている状態です。会計補助台帳で、スケジュール済み、支払済、取消済の支払に対する取引仕訳レコードが生成されます。

未確定

収益または費用が未確定状態の場合、会計補助台帳では支払済または取消済の支払に対する取引仕訳レコードのみが生成されます。

借方と貸方

会計補助台帳は特定の定義に従って、借方金額種別と貸方金額種別を判断します。

表 14 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

会計処理では、取引の種別によって金額が借方列と貸方列にどのように影響するかが異なります。すべての借方取引が減算され、すべての貸方取引が加算されるわけではありません。

どの取引が減算され、どの取引が加算されるのかはどうすればわかるのでしょうか? 会計用語で言うと、借方では収益勘定と資産勘定(売掛金など)の残高が増加し、費用勘定と負債勘定(買掛金など)の残高が減少します。貸方では費用勘定と負債勘定の残高が増加し、収益勘定と資産勘定の残高が減少します。

借方列では増加し、貸方列では減少する科目	貸方列では増加し、借方列では減少する科目
期待収益(確約など)	資金勘定(一般資金、建築資金など)
支払方法(現金、クレジットカードなど)	-

GL コード

会計システムでは、一般台帳の各行に勘定または資金勘定が割り当てられます。取引仕訳オブジェクトの [GL コード] 項目により、各勘定が識別されます。GL コードは会計セット項目に基づいて割り当てられます。

表 15 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

勘定は、増減する活動を追跡するバケットのようなものと考えられます。たとえば、確約された現金支援を受領すると、現金勘定から特定の資金に移されたものとして計上されます。この支援がその後建築資金に充てられた場合は、元の資金から差し引かれ、建築資金勘定に追加されます。

会計補助台帳では、次の基準に基づいて GL コードが自動的に設定されます。



注意

返金支払に関連する取引仕訳レコードについては、GLコードの動作が逆になります。Salesforce で、収益と費用のどちらの種別でも借方の値が貸方、貸方の値が借方に割り当てられます。「[取消と返金の違い](#)」を参照してください。

収益種別の借方 / 貸方情報

取引仕訳種別	借方または貸方	[期待収益/費用を生成]に対応付けられているソース項目が選択されているか?	[GLコード]に入力される情報
取引	借方	–	<ul style="list-style-type: none"> 支払額: 支払方法 取消額: デフォルトの償却勘定コード
支払	貸方	はい	デフォルトの未払勘定コード
支払	貸方	いいえ	資金名
割り当て	借方	–	デフォルトの未払勘定コード
割り当て	貸方	–	資金名

費用種別の借方 / 貸方情報

取引仕訳種別	借方または貸方	[期待収益/費用を生成]に対応付けられているソース項目が選択されているか?	[GLコード]に入力される情報
取引	貸方	–	<ul style="list-style-type: none"> 支払額: 支払方法 取消額: デフォルトの償却勘定コード
支払	借方	はい	デフォルトの未払勘定コード
支払	借方	いいえ	資金名
割り当て	貸方	–	デフォルトの未払勘定コード
割り当て	借方	–	資金名

各自の会計ソフトウェアに合わせて独自の値を設定できます。たとえば、各自の会計ソフトウェアの受取勘定が「未収確約」になっている場合、会計補助台帳の GL コードを「未収確約」に設定できます。どの資金割り当て勘定を使用するか会計チームに確認したうえで、会計セットに勘定名を入力します。「[会計セット設定の定義](#)」を参照してください。

収益と費用

会計補助台帳ジョブを実行すると、収益と費用にそれぞれの借方エントリと貸方エントリが生成されます。

表 16 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

会計セットを作成するときは、必ず種別 (収益または費用) を会計チームに確認します。収益と費用では取引が異なるのと同様に、収益と費用から生成される借方と貸方も異なります。では、取引仕訳レコードの例をいくつか見てみましょう。

収益

会計セットで US\$150 の取引に [収益] を選択すると、資産勘定の借方に \$150、収益勘定の貸方に \$150 が生成されます。

日付	説明	勘定種別	借方	貸方
2021/5/15	支援	資産	\$150	-
2021/5/15	支援	収益	-	\$150
-	-	-	\$150	\$150

費用

他方、会計セットで同じ取引に [費用] を選択した場合は、資産勘定の貸方に \$150、費用勘定の借方に \$150 が生成されます。

日付	説明	勘定種別	借方	貸方
2021/5/15	支援	資産	-	\$150
2021/5/15	支援	費用	\$150	-
-	-	-	\$150	\$150

取引仕訳レコードを生成した後で既存の会計セットのレコードタイプを変更しないことをお勧めします。代わりに、既存の会計セットを無効にして、適切なタイプの別のセットを作成します。

取引仕訳レコードのページレイアウトの設定

取引仕訳オブジェクトにユーザーのニーズに応じた独自のページレイアウトを設定して、ユーザープロファイルに割り当てます。

表 17: 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
ページレイアウトを作成する	アプリケーションのカスタマイズ
ページレイアウトを割り当てる	プロファイルの管理と権限セット

ページレイアウトを設定する

1. 取引仕訳のオブジェクト管理設定から [ページレイアウト] に移動し、[新規] をクリックします。
2. ページレイアウト名を入力して、変更内容を保存します。

3. 少なくとも次の項目に加えて、追加済みのカスタム項目を追加することをお勧めします。
- 発生仕訳エントリ
 - 予約日
 - 作成者
 - 貸方金額
 - コメント
 - 借方金額
 - 期日
 - 外部取引 ID
 - 資金勘定値
 - 一般台帳コード
 - 仕訳種別
 - 最終更新日
 - 支払日
 - 支払方法
 - 取引金額
 - 取消仕訳エントリ



注意

予約日は、取引仕訳レコードの取引日です。

Transaction Journal Detail			
Standard Buttons		Custom Buttons	
Clone		Change Record Type	Printable View
Custom Links (Header visible on detail only)			
Accounting Info			
Accounting Model Config Name	Sample Text	Adjustment Journal Entry	✓
Due Date	9/30/2022	Accrual Journal Entry	✓
Booking Date	9/30/2022		
General Ledger Code	Sample Text		
Comment (Header not visible)			
Comment	Sample Text		
Transaction			
Transaction Amount	\$123.45	Write Off Journal Entry	✓
Debit Amount	\$123.45	Credit Amount	\$123.45
Payment Method	Sample Text	Payment Date	9/30/2022
Fund Account Value	Sample Text	External Transaction ID	Sample Text
System			
Created Date	9/30/2022, 2:16 PM	Last Modified Date	9/30/2022, 2:16 PM
Created By	Sample Text	Journal Type	Sample Text

4. 変更内容を保存します。

ページレイアウトを割り当てる

1. [ページレイアウト] ページをまだ開いていない場合は、取引仕訳のオブジェクト管理設定から [ページレイアウト] に移動して、[ページレイアウトの割り当て] をクリックします。
2. [割り当ての編集] をクリックします。
3. [使用するページレイアウト] ドロップダウンリストから、作成したページレイアウトを選択します。
4. 取引仕訳レコードを参照可能にするすべてのプロファイルの行を選択します。
5. 変更内容を保存します。

「[ページレイアウト](#)」を参照してください。

支払方法

支払方法と、取引仕訳レコードへのその影響を設定します。

表 18 : 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
取引仕訳オブジェクトを編集するか、会計設定を定義する	会計補助台帳の管理
選択リストを変更する	アプリケーションのカスタマイズ

支払方法の追加

会計補助台帳では、取引仕訳レコードにデフォルトの支払方法が指定されていません。支払方法がソースオブジェクトの方法と一致していることを確認してオブジェクトに追加します。

1. 取引仕訳のオブジェクト管理設定から、[項目とリレーション] に移動します。
2. [支払方法] を見つけて選択します。
3. 支払方法の選択リスト値セクションで、[新規] をクリックします。
4. 支払方法を各行に 1 つずつ入力します。
5. 変更内容を保存します。

「[選択リスト値の追加または編集](#)」を参照してください。

調整取引仕訳レコードの作成

時として、会計チームがソースレコードの支払方法の変更を追跡したいと考えることがあります。その場合は会計補助台帳で、支払方法を更新した新しい取引仕訳レコードが生成され、以前に生成した会計データのレコードが再分類されるように設定します。

1. [設定] で、[クイック検索] ボックスに「会計設定」と入力し、[会計設定] を選択します。
2. [支払方法の変更時に調整を作成] をオンにします。

再処理したくない取引仕訳レコードがあるときは、次のオプションを検討します。

- [会計レコード開始日] を将来の日付に変更して、既存のレコードからさらなるレコードが生成されないようにする。
- Salesforce データローダーなどのツールを使用して、既存のレコードの支払方法を新しい方法に更新する。このオプションは複雑になる可能性があるため、上級システム管理者が Sandbox でテストした後でのみ実行することをお勧めします。「[データローダーを使用するケース](#)」を参照してください。

キャッシュフローのグループ化

取引仕訳レコードをグループ化する方法を設定します。キャッシュフローはその種別に応じて、資金勘定、または資金勘定と期日で特定します。

表 19: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

期待キャッシュフローのグループ化

会計部門が発生主義会計を採用している場合、収益または費用をいつ受領する見込みかを把握したいと考えることがあります。会計補助台帳ではデフォルトで、取引仕訳レコードが資金勘定割り当てによってのみ分割されますが、資金勘定割り当てと期日で分割することも可能です。

支払済キャッシュフローのグループ化

貸方と借方だけでは全容を把握できないことがあります。取引仕訳レコードを特定の資金勘定でグループ化して詳細を確認できます。こうしたグループ化は特に特殊な GL コードが必要な場合に役立ちます。会計補助台帳ではデフォルトで、収益は貸方、費用は借方のみがグループ化されます。

**警告**

特定の資金勘定でグループ化した取引仕訳レコードをすでに生成している場合は、この設定を元に戻さないことをお勧めします。元に戻すと、会計データが複製されることがあります。代わりに、既存の会計セットを無効にして、別のセットを作成します。[会計レコード開始日]を現在の日時に設定して、再処理されるレコード数を制限することを検討します。その後、新しい会計セットを有効にします。

「[会計セット設定の定義](#)」を参照してください。

会計項目の対応付け

会計項目の対応付けを作成して、データを取引仕訳レコードのカスタム項目に取り込むことができます。

表 20 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

取引仕訳レコードには、対象となるソースオブジェクトから入力されるデフォルトの項目が含まれます。会計システムでデフォルトの項目以外のデータが必要な場合、会計セットでカスタム項目と会計項目の対応付けを作成し、データをこれらのカスタム項目にコピーします。たとえば、一般会計単位の割り当てオブジェクトに組織のさまざまな支援者カテゴリを表すカスタム項目があるとします。生成されたキャッシュフローでこの内訳を反映するには、取引仕訳オブジェクトで一一致するカスタム項目を作成します。

対応付け動作

対応付け動作により、ソースデータの変更時に Salesforce で取引仕訳レコードを作成するかどうかを制御します。

- **時点:** 会計補助台帳によってレコードが作成されたときに、ソース項目値が取引仕訳レコード対象項目にコピーされます。Salesforce ではソース項目に対する以降の更新が無視され、それ以上の取引仕訳レコードは作成されません。
- **現在の値:** 会計補助台帳によってレコードが作成されたときに、ソース項目値が取引仕訳レコード対象項目にコピーされます。Salesforce で以降のソース値の更新が評価され、それに合わせて逆仕訳などのレコードが作成されます。取引仕訳レコードの値を更新する自動化は追加しないでください。追加すると、会計補助台帳で不要な逆仕訳や取引仕訳レコードが作成される場合があります。代わりに、会計項目の対応付けの外部に 2 番目の項目を作成して取引仕訳レコードの値を保存し、その 2 番目の項目に自動化を追加します。

取引仕訳レコードのソース値は対応付けと比較のみに使用してください。資金オブジェクトなどの一部のオブジェクトでは現在の値の動作がサポートされません。

互換性のあるデータ型

対応付けられた項目は互換性のあるデータ型である必要があります。

ソース項目のデータ型	カスタム項目のデータ型
チェックボックス	チェックボックス
通貨	通貨、数値
日付	日付
日付/時間	日付/時間
メール	メール、テキスト、テキストエリア
数値	通貨、数値
パーセント	数値、パーセント
電話	電話、テキスト、テキストエリア
選択リスト	選択リスト、選択リスト(複数選択)、テキスト、テキストエリア
選択リスト(コンボボックス)	選択リスト、文字列、テキストエリア
選択リスト(複数選択)	選択リスト(複数選択)、テキスト、テキストエリア
参考文献	メール、電話、参照、テキスト、テキストエリア
テキストエリア	テキスト、テキストエリア

「[カスタム項目の作成](#)」および「[会計項目の対応付けの作成](#)」を参照してください。

会計セット

会計セットを使用して財務データを会計補助台帳データモデルに対応付け、各セットの設定を定義して取引仕訳レコードを生成します。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供しません。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来ドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

会計セットのオブジェクトモデル

会計セットでは、ソースデータをどのオブジェクトや項目に保存して、そこから取引仕訳レコードをどのように生成するかを指定できます。会計セットは 1 ~ 4 つのオブジェクト (資金勘定オブジェクトを含む) をサポートする論理データモデルに各自の財務データモデルを対応付けることができる柔軟なアプローチです。各会計セットは、支援の収益や手数料の費用など、一連の財務データを表します。

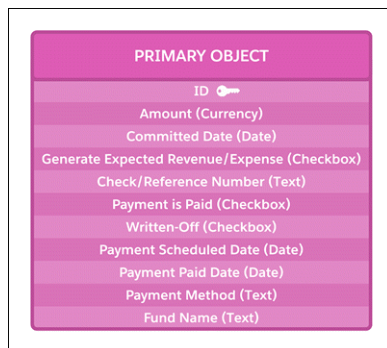
表 21 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

どのオブジェクトモデルにも同様のデータが必要ですが、採用するオブジェクトモデルに応じて、必要なデータを保持するソース項目が異なります。ソース項目の会計セット項目への対応付け (各オブジェクトモデルでどのソースオブジェクトにソース項目が含まれるかなど) についての詳細は、「[ソースデータの会計セットへの対応付け](#)」を参照してください。

1 オブジェクトモデル

1 オブジェクトモデルでは最大の柔軟性が提供されます。これを使用して、オブジェクト階層を使用することなく、1 つのレコード内にすべての関連情報を組み込む独自のオールインワンカスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトを作成します。

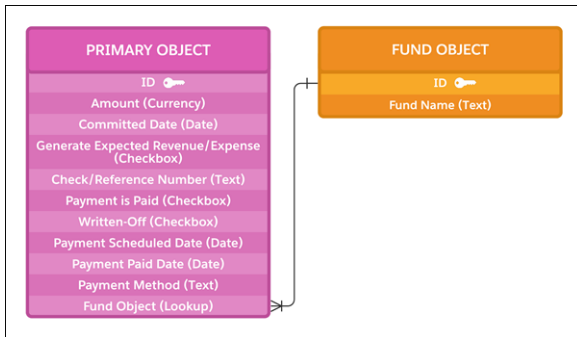


最適な使用状況: 財務取引に必要なすべての情報 (資金情報を含む) が主オブジェクトに存在し、各レコードが 1 つの資金に関連付けられている。

2 オブジェクトモデル

2 オブジェクトモデルは 1 オブジェクトモデルに似ていますが、資金勘定情報は個別の関連レコードにあることを想定している点が異なります。

主オブジェクトには、金融トランザクションに関するその他すべての必要なデータが含まれています。これは、資金勘定レコード (この図では資金オブジェクトとして表示) を参照するように設計されています。



2 オブジェクトモデルでは、レコード間で資金情報を共有できます。たとえば、「Athletics Scholarships Fund (スポーツ奨学金資金)」という資金がある場合、この情報を各レコードに繰り返し入力するのではなく、資金情報を含む 1 つのレコードを参照することができます。生成された取引仕訳レコードはすべて、関連レコードの資金情報を使用します。もう 1 つの一般的な例は、一般費用勘定です。

最適な使用状況: 資金情報以外の必要なすべての財務情報が主オブジェクトに存在し、資金情報は主オブジェクトへの参照によって関連付けられている 1 つのレコードに存在する。



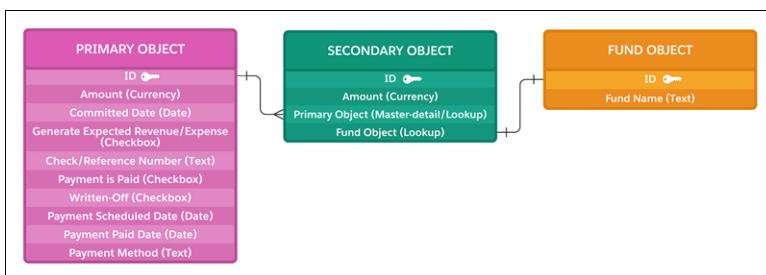
注意

マルチ通貨を使用する場合は、主オブジェクトと第二オブジェクトに同じ通貨を指定します。通貨が異なると、会計補助台帳で不正確な取引仕訳レコードが生成される可能性があります。

3 オブジェクトモデル

このモデルの他の 2 つのオブジェクトの目的は、割り当てオブジェクトを介して 1 つ以上の資金間で分割できるようにすることです。

2 オブジェクトモデルと同様に、3 オブジェクトモデルのほとんどの情報は主オブジェクトレコードにあります。第二オブジェクトは特定の資金オブジェクトレコードを参照し、その資金に割り当てられた金額を指定します。



最適な使用状況: 場合によって複数の資金に分割する必要のある取引が 1 つある。資金情報を除くすべての必要な財務情報が主オブジェクトにある。第二オブジェクトは、特定の資金への割り当て (金額を含む) を表す。



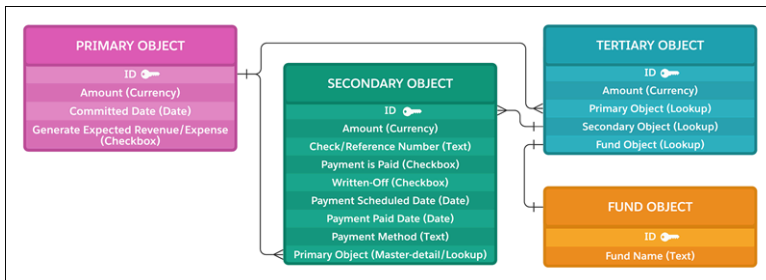
注意

マルチ通貨を使用する場合は、その主オブジェクトレコードとすべての関連レコードに同じ通貨を指定します。通貨が異なると、会計補助台帳で不正確な取引仕訳レコードが生成される可能性があります。

4 オブジェクトモデル

4 オブジェクトモデルは、複数の支払や費用が 1 つのレコードに積み上げ集計される複雑な構造に対応します。

4 オブジェクトモデルで、主オブジェクトは財務上の全般的な義務の概要を表します。第二オブジェクトは、個々の取引を表します。4 オブジェクトモデルでは、第二オブジェクトに資金割り当てがあります。第三オブジェクトがこうした割り当てを表し、割り当ての金額と割り当て先の資金の両方を指定します。資金オブジェクトは、資金勘定レコードを表します。



最適な使用状況: 複雑なレコード構造が 1 つの主オブジェクトの親レコードに積み上げ集計され、複数の関連する支払種別が 1 つ以上の資金勘定に分割される。たとえば、機関で支援を一連の関連取引 (継続支援、分割された確約など) として管理している。



注意

マルチ通貨を使用する場合は、その主オブジェクトレコードとすべての関連レコードに同じ通貨を指定します。通貨が異なると、会計補助台帳で不正確な取引仕訳レコードが生成される可能性があります。

ソースデータの会計セットへの対応付け

取引仕訳レコードの生成に使用するソースレコード項目を、会計セット項目に対応付けて選択します。

表 22 : 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

必要なユーザー権限

会計セットを設定する

会計補助台帳の管理

会計セットの設定を開始する前に、ソースレコードの値が、取引仕訳オブジェクトの対象項目の最大文字数を超えていないことを確認してください。たとえば、ロングテキストエリア項目に入力可能な文字数は、通常のテキスト項目には長すぎて保存できません。このような場合、会計補助台帳ジョブの実行時にエラーが発生します。また、会計セットに対応付けようとしているソース項目が存在し、適切なデータ型であることを確認します。たとえば、会計セットの支払日に対応付ける場合は、ソースオブジェクトに日付型の項目が必要です。

会計セットの設定例については、「[会計セットの例の設定](#)」を参照してください。


ソースオブジェクトを指定する

1. [設定] で、[クイック検索] ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット] を選択します。
2. 会計セットの名前を入力します。
3. この会計セットに使用するオブジェクトモデルに基づいて、ソースオブジェクトの数を選択します。「[会計セットのオブジェクトモデル](#)」を参照してください。
4. 次の要件を念頭に、主オブジェクトと、必要に応じて追加オブジェクトを選択します。
 - 主オブジェクトの後に選択する各オブジェクトが、以前に選択したオブジェクトに関連している必要がある。
 - 第二オブジェクトには、主オブジェクトへの参照関係または主従関係が必要である。
 - 第三オブジェクトには、主オブジェクトと第二オブジェクトの両方への参照関係または主従関係が必要である。
 - 資金オブジェクトとして選択するオブジェクトには、第三オブジェクトの資金オブジェクトへの参照関係が必要で、常に最後に選択するオブジェクトでなければならない。
 - オブジェクトは一度だけ選択できる。たとえば、取引先オブジェクトを主オブジェクトに対応付ける場合、別のオブジェクトにこのオブジェクトを選択することはできない。
5. [次へ] をクリックします。


ソース項目を指定する

続いて、ソースオブジェクトごとに、その項目を会計セットの対象項目に対応付けます。

1. 会計セットをまだ編集していない場合は、[設定] で、[クイック検索] ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット] を選択します。

2. 設定する会計セットの横にある  をクリックして、[編集] を選択します。
3. [次へ] をクリックします。
4. データを含むソースオブジェクトの項目の名前を選択します。(日付) や (チェックボックス) のように、想定されるデータ型が括弧内に示されます。ドロップダウンにはそのデータ型と一致するソース項目のみが示されます。

会計セット項目	目的
金額 (1 または 2 オブジェクトモデル)	主オブジェクトの収益金額または費用金額
金額 (3 オブジェクトモデル)	主オブジェクトの収益金額または費用金額と、第二オブジェクトの割り当て金額
金額 (4 オブジェクトモデル)	主オブジェクトの総額と、第二オブジェクトの収益金額または費用金額と、第三オブジェクトの割り当て金額
確認/参照番号	レコードが支払済または取消済とマークされたときに記録される確認番号または参照番号。ソースデータ値が 40 文字以下であることを確認します。
確定日	収益または費用が最初に約束された日付。空の場合、デフォルト値は会計補助台帳ジョブが実行された日です。
資金名	収益または費用が割り当てられる資金勘定の名前。勘定番号である場合もあります。Salesforce では、この値が GL コードとして使用されます。ソースデータ値が 100 文字以下であることを確認します。
期待収益/費用を生成	取引仕訳レコードの生成に発生主義会計と現金主義会計のどちらを適用するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ソースレコードでこのチェックボックスがオンになっている場合は、Salesforce でスケジュール済みと支払済の両方の収益と費用に対するレコードが生成されます。 • ソースレコードでこのチェックボックスがオフになっている場合は、Salesforce で支払済の収益と費用に対するレコードのみが生成されます。 この値はデフォルトでオフになっています。
支払済	オンの場合は、ソースレコードが支払済とマークされています。
支払方法	使用される支払方法。ソースデータ値が 255 文字以下であることを確認します。
支払日	レコードの支払が行われた日
予定日	レコードの支払がスケジュールされている日


会計セット項目	目的
取引日	<p>収益または費用が期待、受領、調整された日。収益や費用の対応付け種別およびオブジェクトモデルによって必要な対応付けが異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支払済の収益または費用: 4 オブジェクトモデルでは、第二オブジェクトの追加の取引日を対応付けます。その支払または費用にはこの日付のみが使用されます。それ以外は、すべてのソースレコードに1つの取引日を使用されます。他のすべてのオブジェクトモデルでは、主オブジェクトの取引日を対応付けます。 期待収益または費用: すべてのオブジェクトモデルで、すべてのソースレコードの主オブジェクトで対応付けた取引日を使用されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 注意 [取引日] 項目に独自の日付を対応付けた場合は、他の変更に応じてソースレコードの日付が設定されるようにする自動化を設定することをお勧めします。たとえば、プロセスビルダーまたは Flow Builder を使用すれば、誰かがレコードを作成したとき、または支払日を更新したときに取引日を現在の日付に更新できます。それ以外の場合は、取引日が、スケジュール済み会計ジョブが実行された日に設定されます。</p> </div>
取消済	<p>オンの場合は、ソースレコードが取消済とマークされています。この値はデフォルトでオフになっています。</p>

会計セット設定の定義

ソース項目を会計セットの対象項目に対応付けたら、会計補助台帳で各会計セットの取引仕訳レコードをどのように生成するかを設定します。

表 23 : 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計設定を定義する	会計補助台帳の管理

1. [設定]で、[クイック検索]ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット]を選択します。
2. 設定する会計セットの横にあるをクリックして、[編集]を選択します。
3. [次へ]をクリックし、次のページの[次へ]をクリックします。
4. 次の設定を定義します。

項目	説明
会計セット種別	会計セットで収益と費用のどちらの種別の取引仕訳レコードを生成するかを示します。
会計レコード開始日	日付に基づいて処理するソースレコードを絞り込みます。会計補助台帳では、この日付以降に作成されたレコードのみが考慮されます。
実行順序	会計セットの実行する順序を決定します。会計補助台帳では、この数字が昇順で適用され、実行順序が空の会計セットが最後に処理されます。実行順序が同じセットが複数ある場合は、API参照名の昇順に並び替えられます。
デフォルトの未払勘定コード	会計システムのデフォルトの未払勘定のコード。「GLコード」を参照してください。
デフォルトの償却勘定コード	会計システムの取消済の支払のコード。「GLコード」を参照してください。
期待キャッシュフローのグループ化	会計補助台帳で取引仕訳レコードを資金勘定でグループ化するか、資金勘定と期日でグループ化するかを決定します。この設定を変更しても既存のレコードには影響ありません。変更後に作成または元に戻したレコードにのみ影響します。「 キャッシュフローのグループ化 」を参照してください。
支払済キャッシュフローのグループ化	生成される取引仕訳レコードの詳細度を決定します。 <ul style="list-style-type: none"> • サマリーでグループ化: 収益の貸方と費用の借方のみが資金勘定で分割されます。 • 資金勘定でグループ化: すべての取引仕訳レコードが資金勘定で分割されます。次に、支払種別のレコードに第二レコードが作成されますが、取引種別のレコードには作成されません。 <p>この設定を変更すると既存のレコードに影響するため、すでに会計データを生成している場合は変更しないことをお勧めします。「キャッシュフローのグループ化」を参照してください。</p>

5. 処理するレコードを決定する条件ロジックを選択します。
 - すべての条件に一致 (AND): すべての条件を満たすレコード。
 - いずれかの条件に一致 (OR): 1 つ以上の条件を満たすレコード。
 - どの条件にも一致しない: いずれかの条件を満たすレコードを除くすべてのレコード。
6. 必要に応じて条件を設定します。
 - リソース: 会計セットの主オブジェクトの項目。数式項目の場合、Salesforce では数式を処理するときには現在の値ではなくデータ処理エンジンに送信された最後の値を取得します。矛盾が生じないように、時間境界に基づいた数式項目を使用しないことをお勧めします。ドロップダウンにすべての項目はリストされません。「[会計補助台帳の制限](#)」を参照してください。
 - 演算子: 項目値を評価する方法。
 - 値: 選択項目に応じて評価する項目値。たとえば、チェックボックスで使用できる値は True または False、数値で使用できる値は数字です。
7. 主オブジェクトから処理するレコードタイプを選択します。この項目は大文字と小文字が区別されます。
8. [完了] をクリックします。

条件設定の例

特定の種別の料金についてのみ取引仕訳レコードを生成する条件設定の例を確認してください。

2023 年 12 月 31 日が期限の未払の手数料についてのみ取引仕訳レコードを生成するとします。主オブジェクトの次の項目を使用してこの情報を表現します。

- [Applicant Fees (出願者手数料)] チェックボックス
- [支払済] チェックボックス
- [期日] 項目

次のように条件設定を定義します。

- すべての条件に一致 (AND)
- 条件 1:
 - リソース: Applicant Fees (出願者手数料)
 - 演算子: 次の値と等しい
 - 値: True

- 条件 2:
 - リソース: 支払済
 - 演算子: 次の値と等しい
 - 値: False
- 条件 3:
 - リソース: 期日
 - 演算子: 次の値より小さい
 - 値: Dec 31, 2023 (2023 年 12 月 31 日)

会計項目の対応付けの作成

会計項目の対応付けを使用して、デフォルトの取引仕訳レコード以外の財務データを生成できます。


表 24: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計項目の対応付けを設定する	会計補助台帳の管理

会計項目の対応付けを作成する前に、次の点を検討します。

- 会計セットでは最大 10 件の会計項目の対応付けを作成できます。
- 有効な会計セットで使用されている会計項目の対応付けを編集または削除することはできません。「[会計セットの管理](#)」を参照してください。
- API を使用して会計セットを削除するか、そのオブジェクトモデルを変更すると、その関連する会計項目の対応付けも削除されます。
- 取引仕訳オブジェクトで対象項目として使用するカスタム項目を作成して追加する必要があります。「[カスタム項目の作成](#)」を参照してください。

会計項目の対応付けを作成する手順は、次のとおりです。

1. [設定] で、[クイック検索] ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット] を選択します。
2. 会計項目の対応付けを追加する会計セットの横にある  をクリックし、[表示] を選択します。
3. [新しい会計項目の対応付け] をクリックします。

4. データのコピー元となるソースオブジェクトを選択します。ドロップダウンには関連する会計セットのオブジェクトモデルに含めたソースオブジェクトのみがリストされます。
5. データのコピー元となるソース項目を選択します。
6. データのコピー先となる取引仕訳対象項目を選択します。対象項目は次の要件を満たしている必要があります。
 - そのデータ型が選択したソース項目と一致する。「[互換性のあるデータ型](#)」を参照してください。
 - 同じ会計セット内の別の会計項目の対応付けで使用されていない。
7. [次へ] をクリックします。
8. 対応付け動作を選択します。

[現在の値] を選択する場合は、取引仕訳レコードの値を更新する自動化を追加しないでください。追加すると、会計補助台帳で不要な逆仕訳や取引仕訳レコードが作成される場合があります。代わりに、会計項目の対応付けの外部に 2 番目の項目を作成して取引仕訳レコードの値を保存し、その 2 番目の項目に自動化を追加します。取引仕訳レコードのソース値は対応付けと比較のみに使用してください。資金オブジェクトなどの一部のオブジェクトでは現在の値の動作がサポートされません。

会計セットの管理


会計セットの設定が完了したら、有効化します。有効化すると、オブジェクトモデルは変更できなくなりますが、その他の設定を更新するために無効化することはできます。

表 25 : 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計セットを管理する	会計補助台帳の管理

会計セットを有効または無効にできるのはシステム管理者ユーザーのみです。


会計セットを有効にする

1. [設定] で、[クイック検索] ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット] を選択します。
2. 有効にする会計セットの横にある  をクリックして、[有効化] を選択します。
3. [OK] をクリックします。



会計セットを有効にする場合、データの検証要求と作成要求がデータ処理エンジンに送信されるため、完了に時間がかかることがあります。

会計セットの編集または無効化

会計セットを編集するには、まず無効化します。有効な会計セットに関連する会計項目の対応付けを編集または削除することはできません。無効にすると、会計データの作成中に無効化された会計セットのソースレコードが無視されます。編集が完了したら、会計セットを再度有効にします。他の重要な変更と同様に、変更をリリースする前に Sandbox でテストすることをお勧めします。

1. [設定] で、[クイック検索] ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット] を選択します。
2. 編集する会計セットの横にある  をクリックして、[無効化] を選択します。
3. [OK] をクリックします。

会計セットを無効にする場合、データの検証要求がデータ処理エンジンに送信されるため、完了に時間がかかることがあります。

4.  をもう一度クリックして、[編集] を選択します。
5. 編集を行い、変更内容を保存します。
6. [会計セット] ページで、有効にする会計セットの横にある  をクリックして、[有効化] を選択します。
7. [OK] をクリックします。

主オブジェクトレコードの削除またはマージに関する考慮事項

会計セットで主オブジェクトとして使用しているレコードを削除またはマージしても、逆仕訳はトリガーされません。

表 26 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

- 誰かが会計セットで使用している主オブジェクトのレコードを削除しても、Salesforce から削除されることはありません。したがって、会計補助台帳ジョブで逆仕訳の取引仕訳レコードが作成されることもありません。データの整合性を確保するために、ユーザーがこうしたレコードを削除できないようにすることをお勧めします。たとえば、プロファイルまたはオブジェクトの権限セットから「削除」権限を取り除くことが考えられます。会計

補助台帳では、会計セットで使用する他のすべてのオブジェクトの削除がサポートされています。

- レコードをマージすると、重複レコードが削除されます。

逆仕訳についての詳細は、「[負の支払金額または費用金額 \(逆仕訳\)](#)」を参照してください。

会計セットの例の設定

一般的な使用事例に推奨される会計セットの対応付けを確認します。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来のドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

募集および入学者選考に関する料金用の会計セットの設定

教育機関にとって、出願ジャーニーと特定の学校への入学許可に関して学習者にサービスを実施することは、ミッションの重要な部分です。キャンパス内での学習からオンライン学習まで、教育機関 (特に高等教育機関) は募集および入学者選考サイクル全体で入学希望の学生や在籍中の学生とやりとりします。

表 27: 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計セットを設定する	会計補助台帳の管理

Dimitri は Astro University 大学の入学事務局長です。事務局が学生に対応する中で、Dimitri は Salesforce を使用して大学への出願と登録に関する料金を処理します。会計補助台帳を使用すれば、資金の流れを正確に追跡できるため、Astro の財務部門が各年度の財務照合に必要なすべてのデータを入手できます。Dimitri が会計セットを設定して、学生から受領した料金を追跡する財務レコードを生成する手順を見ていきましょう。

要件

- 登録料などの出願に関する料金用のカスタムオブジェクト。この設定では、Dimitri は Application Fee (出願料) カスタムオブジェクトを作成しました。

1. 次の表に記入して、会計セットの項目の対応付けを計画します。



注意

Dimitri は Application Fee (出願料) というカスタムオブジェクトに基づいて項目を対応付けていますが、料金の追跡に使用するカスタムオブジェクトであればどれでも対応付けることができます。

取引仕訳項目	種別	Dimitri の出願料項目	あなたの出願料項目	その他の考慮事項
金額	通貨	Fee Amount (料金)		-
確定日	日付	Application Date (出願日)		-
期待収益/費用を生成	チェックボックス	Future Fee? (将来の料金?)		-
取引日 (省略可能)	日付	-		-
確認/参照番号 (省略可能)	テキスト	Application ID (出願 ID)		-
支払済	チェックボックス	Paid Fee? (支払済の料金?)		-
取消済	チェックボックス	Refunded Fee? (返金済の料金?)		-
支払予定日	日付	期日		[支払済] がオフの場合はオブジェクトに値が必要。
支払日	日付	支払日		次のいずれかに該当する場合はオブジェクトに値が必要。 <ul style="list-style-type: none"> [支払済] がオンである。 [取消済] がオンである。
支払方法	テキスト	支払方法		-
資金名	テキスト	資金名		オブジェクトに値が必要。

2. 取引仕訳レコードに対応付ける項目を含むオブジェクトの管理設定から、[項目とリレーション]に移動します。
 - 前の表の各項目に対応する取引仕訳項目と一致するデータ型の項目がカスタムオブジェクトにあることを確認します。たとえば、[確定日]に対応付ける項目は日付型である必要があります。
 - カスタムオブジェクトに必要な項目がない場合や項目のデータ型が異なる場合は、カスタム項目を作成します。「[カスタムオブジェクトの管理](#)」を参照してください。
3. [設定]で、[クイック検索]ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット]を選択します。
4. [新規]をクリックします。
5. 次の項目に入力して、[次へ]をクリックします。

項目	値
名前	会計セットの名前を入力します。この設定では、Dimitri は「Application Fees」（出願料）という名前を付けます。
オブジェクト数	[1 オブジェクトモデル]を選択します。
主オブジェクト	手数料オブジェクトを選択します。この設定では、Dimitri は Application Fee (出願料) カスタムオブジェクトを使用します。

6. ステップ 1 で入力した表を使用して、[新規会計セット] ページの値を選択し、[次へ]をクリックします。Dimitri の対応付けは次のようになります。

Step 2 of 3 : Create New Accounting Set Cancel Back Next

Application Fees | Inactive

Select the Source Field for each required data point in your chosen object structure below. Once your selections have been made, click Next.

Application Fee [Application_Fee__c]

* Amount (Currency)

* Committed Date (Date)

* Generate Expected Revenue/Expense (Checkbox)

Transaction Date (Date)

Check/Reference Number (Text)

* Payment is Paid (Checkbox)

* Written-Off (Checkbox)

* Payment Scheduled Date (Date)


* Payment Paid Date (Date)

* Payment Method (Text)

* Fund Name (Text)

7. 次の項目に入力して、変更内容を保存します。

項目	値
会計セット種別	[収益] を選択します。
会計レコード開始日	会計補助台帳でレコードを処理する最も早い日付を選択します。
デフォルトの未払勘定コード	今後の料金に使用する資金の名前を入力します。
デフォルトの償却勘定コード	返金された料金に使用する資金の名前を入力します。
期待キャッシュフローのグループ化	予定されている今後の料金を表示するには、[資金勘定と期日でグループ化] を選択します。

8. [会計セット] ページで、作成した会計セットの横にある  をクリックして、[有効化] を選択します。

Revenue Cloud 向けの会計セットの設定

商品カタログや価格体系が複雑な組織にとっては、見積の生成、顧客への請求、支払の回収といった活動が極めて重要です。こうした組織はその業種にかかわらず、大量の取引を記帳、承認、受信する際に Salesforce で多種多様なレコードを管理します。

表 28 : 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計セットを設定する	会計補助台帳の管理

Clarissa は Ursa Major Solar の営業部長です。営業担当は購入の確約に向けて見込み客の育成に取り組んでいます。担当者が認識済み収益に変換したら、Clarissa は Salesforce に売上見積と請求書を記録します。会計補助台帳を使用すれば、資金の流れを正確に追跡できるため、Ursa Major の会計部門が四半期末の帳簿の照合で必要なすべてのデータを入手できます。Clarissa が会計セットを設定して、こうした収益創出レコードに対する財務レコードを生成する手順を見ていきましょう。

要件

- Salesforce CPQ または Salesforce Billing に付属する請求書、注文、支払オブジェクト

1. 次の表に記入して、会計セットの項目の対応付けを計画します。



注意

Clarissa は Revenue Cloud のオブジェクトに基づいて項目を対応付けていますが、収益創出レコードの追跡に使用する標準またはカスタムオブジェクトであればどれでも対応付けることができます。

取引仕訳項目	種別	請求書項目	注文項目	支払項目	あなたの項目
金額	通貨	税込総額	注文金額	金額	
確定日	日付	請求書発行日	PO 日付	支払日	
期待収益/費用を生成	チェックボックス	収集保留	今すぐ請求	支払済	
取引日	日付	請求書転記日	-	-	
確認/参照番号	テキスト	-	注文 ID	確認番号	
支払済	チェックボックス	支払済	支払済	支払済	
取消済	チェックボックス	返金	返金済	返金済	
支払予定日	日付	請求書発行日	PO 日付	支払日	
支払日	日付	請求書発行日	PO 日付	支払日	
支払方法	テキスト	支払方法	支払方法	支払方法	
資金名	テキスト	部門	部門	部門	

2. 取引仕訳レコードに対応付ける項目を含むオブジェクトの管理設定から、[項目とリレーション]に移動します。
 - 前の表の各項目に対応する取引仕訳項目と一致するデータ型の項目がカスタムオブジェクトにあることを確認します。たとえば、[確定日]に対応付ける項目は日付型である必要があります。
 - カスタムオブジェクトに必要な項目がない場合や項目のデータ型が異なる場合は、カスタム項目を作成します。「[カスタムオブジェクトの管理](#)」を参照してください。
3. [設定]で、[クイック検索]ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット]を選択します。
4. [新規]をクリックします。

5. 次の項目に入力して、[次へ]をクリックします。

項目	値
名前	会計セットの名前を入力します。この設定では、Clarissa は「Invoices」（請求書）という名前を付けます。
オブジェクト数	[1 オブジェクトモデル] を選択します。
主オブジェクト	手数料オブジェクトを選択します。この設定では、Clarissa は請求書オブジェクト、注文オブジェクト、または支払オブジェクトを使用します。

6. ステップ 1 で入力した表を使用して、[新規会計セット] ページの値を選択し、[次へ] をクリックします。Clarissa の各オブジェクトの対応付けは次のようになります。

Step 2 of 3 : Edit Accounting Set Invoices | Active

Select the Source Field for each required data point in your chosen object structure below. Once your selections have been made, click the Save button to save your changes.

Invoice [blng__Invoice__c]

* Amount (Currency) ⓘ

Total Amount (With Tax) [blng__TotalAmount__c]

* Committed Date (Date) ⓘ

Invoice Date [blng__InvoiceDate__c]

* Generate Expected Revenue/Expense (Checkbox) ⓘ

Hold Collections [HoldCollections__c]

Transaction Date (Date) ⓘ

Invoice Posted Date [blng__InvoicePostedDate__c]

Check/Reference Number (Text) ⓘ

Select a value

* Payment is Paid (Checkbox) ⓘ

Paid [Paid__c]

* Written-Off (Checkbox) ⓘ

Refund [Refund__c]

* Payment Scheduled Date (Date) ⓘ

Invoice Date [blng__InvoiceDate__c]

* Payment Paid Date (Date) ⓘ

Invoice Date [blng__InvoiceDate__c]

* Payment Method (Text) ⓘ

Payment Method [Payment_Method__c]

* Fund Name (Text) ⓘ

Department [Department__c]

Step 2 of 3 : Edit Accounting Set Orders | Active

Select the Source Field for each required data point in your chosen object structure below. Once your selections have been made, click the Save button to save your changes.

Order [Order]

* Amount (Currency) ⓘ

Order Amount [TotalAmount]

* Committed Date (Date) ⓘ

PO Date [PoDate]

* Generate Expected Revenue/Expense (Checkbox) ⓘ

Bill Now [bInq__BillNow__c]

Transaction Date (Date) ⓘ

Select a value

Check/Reference Number (Text) ⓘ

Order ID [Id]

* Payment is Paid (Checkbox) ⓘ

Paid [Paid__c]

* Written-Off (Checkbox) ⓘ

Refunded [Refunded__c]

* Payment Scheduled Date (Date) ⓘ

PO Date [PoDate]

* Payment Paid Date (Date) ⓘ

PO Date [PoDate]

* Payment Method (Text) ⓘ

Payment Method [Payment_Method__c]

* Fund Name (Text) ⓘ

Department [Department__c]

Step 2 of 3 : Edit Accounting Set Payments | Active

Select the Source Field for each required data point in your chosen object structure below. Once your selections have been made, click the Save button at the bottom of the page.

Payment [blng__Payment__c]

* Amount (Currency) ⓘ

Amount [blng__Amount__c]

* Committed Date (Date) ⓘ

Payment Date [blng__PaymentDate__c]

* Generate Expected Revenue/Expense (Checkbox) ⓘ

Paid [Paid__c]

Transaction Date (Date) ⓘ

Select a value

Check/Reference Number (Text) ⓘ

Check Number [blng__CheckNumber__c]

* Payment is Paid (Checkbox) ⓘ

Paid [Paid__c]

* Written-Off (Checkbox) ⓘ

Refunded [Refunded__c]

* Payment Scheduled Date (Date) ⓘ

Payment Date [blng__PaymentDate__c]

* Payment Paid Date (Date) ⓘ

Payment Date [blng__PaymentDate__c]

* Payment Method (Text) ⓘ


Payment Method [blng__PaymentMethod__c]

* Fund Name (Text) ⓘ

Department [Department__c]

7. 次の項目に入力して、変更内容を保存します。

項目	値
会計セット種別	[収益] を選択します。
会計レコード開始日	会計補助台帳でレコードを処理する最も早い日付を選択します。
デフォルトの未払勘定コード	今後の支払に使用する資金の名前を入力します。
デフォルトの償却勘定コード	返金に使用する資金の名前を入力します。

8. [会計セット] ページで、作成した会計セットの横にある  をクリックして、[有効化] を選択します。

資金調達用の会計セットの設定

さまざまな目的に応じて指定された支援を通じて資金調達を行っている組織では、受領した支援とその指定を追跡し、それらが財務システムと正確に照合されるようにすることが重要です。今後到着することが予想される支援で法的契約のあるものについては、収益も事前に記帳されることが予想されます。台帳エントリの正確な作成、調整、エクスポートを行うための要件があります。

表 29: 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計セットを設定する	会計補助台帳の管理

Mary は Hunger No More International の支援マネージャーです。Mary は 1 回限りの支援支払に加えて、継続支援、確約、助成金などの支援コミットメントを受け取っています。Mary には次の目標を達成するためのソリューションが必要です。

- 支援者の希望に従って、1 回限りの支援取引からの収益を指定する。
- 支援者との合意に従って、支援コミットメントを履行する受領取引からの収益を正確に指定する。
- 正規の支援コミットメントまたは法的な支援コミットメントで過払いや不十分な支払があった場合に指定を調整し、支援コミットメントで不十分な支払があった場合に取り消しを管理する。
- すべての取引指定データを台帳エントリに正確に反映して財務システムと会計システムにエクスポートする。

Mary は会計補助台帳 (ASL) を使用して自分の資金調達システムと財務システムを統合し、両方のシステムの収益データの一貫性を確保します。Mary が会計セットを設定して、支援取引指定を反映する財務レコードを生成する手順を見ていきましょう。この支援取引指定により支援取引を 1 つ以上の支援指定に割り当てることができます。この支援指定が資金調達の財務割り当てになります。

要件

- 支援取引、支援取引指定、および支援指定オブジェクトがシステムに存在し、ユーザーがそれらにアクセスできることと、資金調達が組織で有効になっていることを確認します。

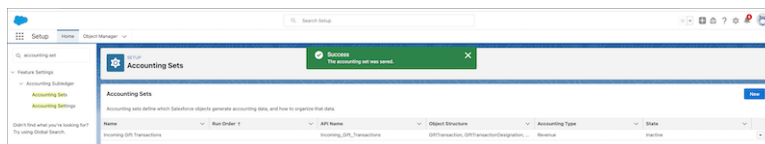
1. 次の表に記入して、会計セットの項目の対応付けを計画します。



注意

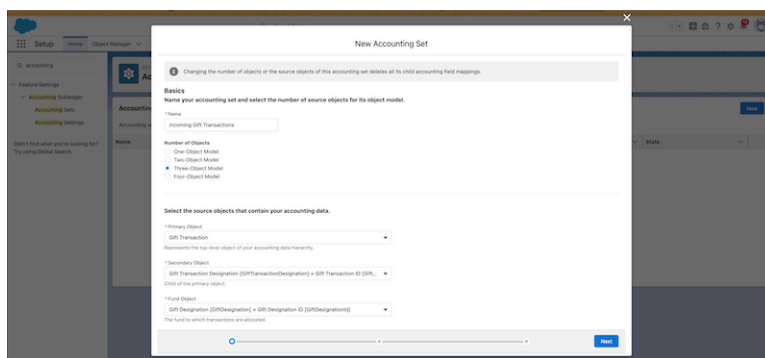
Mary は資金調達アドオンのオブジェクトに基づいて項目を対応付けました。ただし、任意の標準またはカスタムオブジェクトを対応付けて、それらを使用して収益創出レコードを追跡することもできます。

取引仕訳項目	種別	支援取引項目 (主オブジェクト)	支援取引指定項目 (第二オブジェクト)	支援指定項目 (資金オブジェクト)
金額	通貨	現在の金額	金額	-
確定日	日付	-	-	-
期待収益/費用を生成	チェックボックス	IF (ISPICKVAL (GiftCommitment.FormalCommitmentType, "Written"), TRUE, FALSE)		
取引日	日付	取引完了日	-	-
確認/参照番号	テキスト	支払識別子	-	-
支払済	チェックボックス	支払済	-	-
取消済	チェックボックス	取消済	-	-
支払予定日	日付	取引期日	-	-
支払日	日付	取引完了日	-	-
支払方法	テキスト	支払方法	-	-
資金名	テキスト	-	-	名前



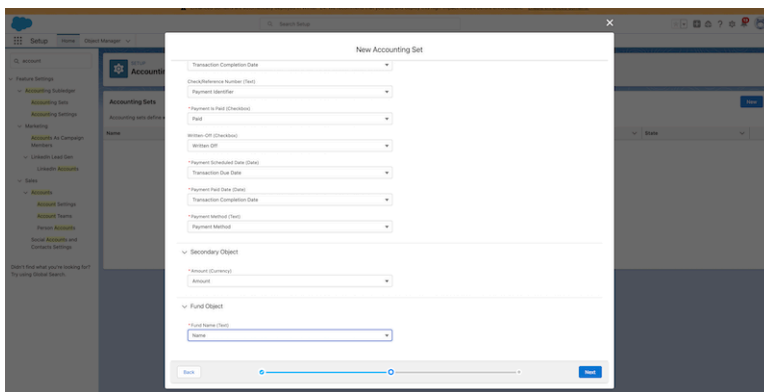
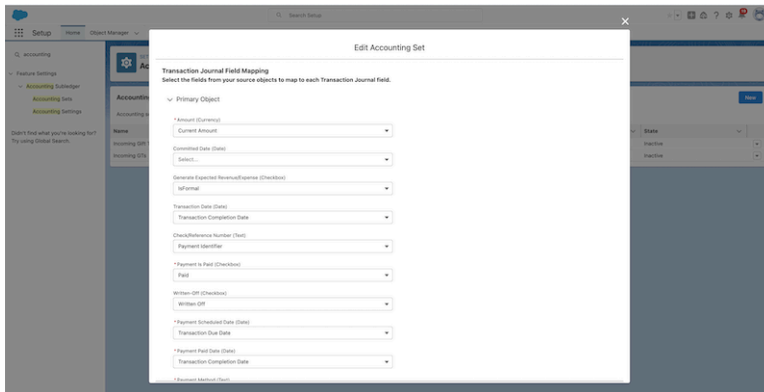
2. 取引仕訳レコードに対応付ける項目を含むオブジェクトの管理設定から、[項目とリレーション]に移動します。
 - 表の各項目について、カスタムオブジェクトに、対応する取引仕訳項目に一致するデータ型の項目があることを確認します。たとえば、[確定日]に対応付ける項目は日付型である必要があります。
 - カスタムオブジェクトに必要な項目がない場合や項目のデータ型が異なる場合は、カスタム項目を作成します。「[カスタムオブジェクトの管理](#)」を参照してください。
 - プラットフォームオブジェクトを使用している場合、発生収益または記帳済み収益を追跡するには、カスタム項目を主オブジェクトに追加して[期待収益/経費を生成](上の表のこの[支援取引]項目を参照)に対応付けます。数式
3. [設定]で、[クイック検索]ボックスに「会計セット」と入力し、[会計セット]を選択します。
4. [新規]をクリックします。
5. 以下の項目に入力します。

項目	値
名前	会計セットの名前を入力します。この設定では、Maryは「Incoming Gift Transactions」（受領支援取引）という名前を付けます。
オブジェクト数	[3 オブジェクトモデル]を選択します。
主オブジェクト	取引オブジェクトを選択します。この設定では、Maryは支援取引オブジェクトを使用します。
第二オブジェクト	主オブジェクトの子オブジェクトを選択します。この設定では、Maryは支援取引指定オブジェクトを使用します。
資金オブジェクト	取引を保存する資金のオブジェクトを選択します。この設定では、Maryは支援指定オブジェクトを使用します。



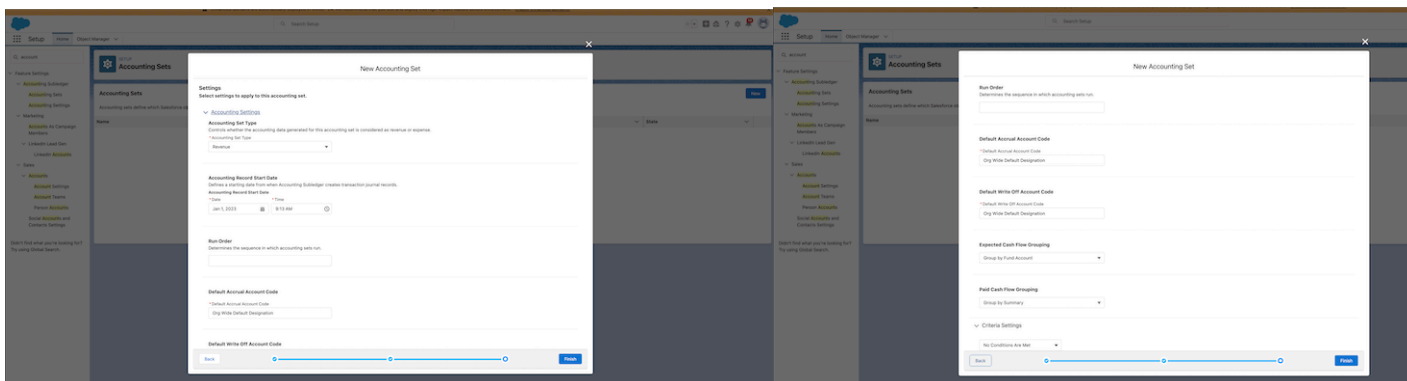
6. [次へ]をクリックします。


7. ステップ 1 で入力した表を使用して、[新規会計セット] ページの値を選択し、[次へ] をクリックします。各オブジェクトの Mary の対応付けを次に示します。

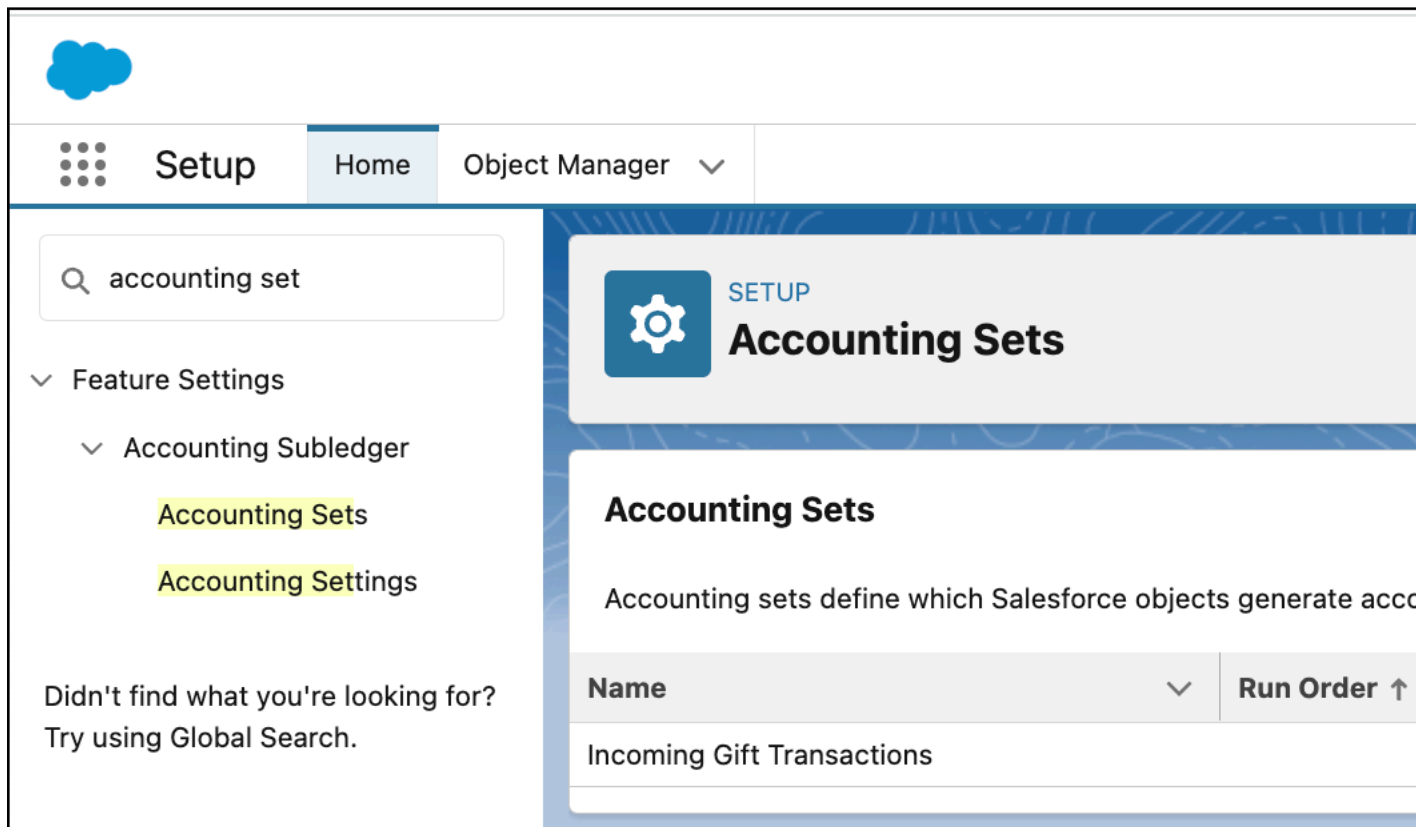


8. 次の項目に入力して、変更内容を保存します。

項目	値
会計セット種別	[収益] を選択します。
会計レコード開始日	会計補助台帳でレコードを処理する最も早い日付を選択します。
デフォルトの未払勘定コード	今後の支払に使用する支援指定の名前を入力します。
デフォルトの償却勘定コード	返金に使用する支援指定の名前を入力します。



9. [会計セット] ページで、作成した会計セットの横にある  をクリックして、[有効化] を選択します。



The screenshot shows the Salesforce Setup page for Accounting Sets. The left sidebar has a search bar with 'accounting set' and a list of options: 'Accounting Subledger', 'Accounting Sets', and 'Accounting Settings'. The main content area has a header 'Accounting Sets' and a table with the following data:

Name	Run Order
Incoming Gift Transactions	



重要

会計セットを作成したら、ASL ジョブを実行できます。ジョブを実行する前に、資金調達へのアクセス権をインテグレーションユーザーに付与していることを確認します。

関連情報:

[会計補助台帳ジョブ](#)

会計補助台帳ジョブ

会計補助台帳ジョブで取引仕訳レコードが生成されます。このジョブを設定して、手動または定義したスケジュールで実行します。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy](#)

[Documentation \(会計補助台帳の従来のドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

会計補助台帳ジョブの入力および影響

対象条件や検索条件を使用して、会計補助台帳ジョブに検討するソースレコードを選択します。ジョブの実行時に監視して、エラーを特定します。

表 30 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

対象となるソースレコードが会計上大幅に変更されると、会計補助台帳ジョブで、ソースレコードの更新された値に応じた取引仕訳レコードが生成されます。たとえば、ジョブの実行時に次の変更が検討されます。

- 未払から支払済への変更
- 最終支払の金額の変更
- 資金割り当ての変更
- 支払方法の変更 (設定をオンにした場合)

Flow Builder で会計補助台帳ジョブを実行する独自のスケジュールを指定するか、手動で実行します。

処理するソースデータの絞り込み

次の条件を使用して、会計補助台帳ジョブで処理するソースデータを選択します。

会計レコード開始日

[会計レコード開始日] を指定すると、主オブジェクトの作成日とその日付以降のソースデータに対する取引仕訳レコードのみが生成されます。

条件設定

会計セットで検索条件を設定する場合、会計補助台帳ジョブによって主オブジェクトで条件が適用され、一致レコードが処理されます。

会計データレコードタイプの絞り込み

[会計データレコードタイプの絞り込み] を指定すると、レコードタイプがこの検索条件に一致するソースデータに対する取引仕訳レコードのみが生成されます。

条件設定またはレコードタイプ検索条件を定義しない場合、会計レコードの開始日以降に作成されたすべてのレコードが会計補助台帳によって処理されます。たとえば、会計

セットの主オブジェクトが支援の場合、会計補助台帳によってすべての支援の作成日が評価されます。

「[ソースデータの会計セットへの対応付け](#)」を参照してください。

ジョブの初回実行時のデータ使用量への潜在的な影響

会計補助台帳を初めて実行するときは、対象となるすべてのソースレコードが検討されます。

会計補助台帳で、対象となるすべてのソースレコードに対する会計データが生成されます。会計補助台帳ジョブを初めて実行するときは、取引仕訳レコードがないソースレコードに取引仕訳レコードが作成されます。初めて実行する前にソースレコードをインポートまたは作成した場合などには、こうしたレコードの作成によってデータの使用量が大幅に増加する可能性があります。「[ソースレコードの適格性](#)」を参照してください。

会計補助台帳ジョブによってログに記録されるエラー

会計補助台帳ジョブで自ら修正できない不一致が検出されると、失敗したレコードが一括管理に記録されます。「[データ処理エンジン定義の実行の監視](#)」を参照してください。

時として、想定されるすべての会計データが生成されていなくても、データ処理エンジンでジョブが正常に実行されたと報告されることがあります。この場合は、受信したメールで実行の詳細を確認してください。

取引仕訳の作成の有効化

会計セットを設定し、他の要件をすべて満たしたら、取引仕訳の作成をオンにします。

表 31 : 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

必要なユーザー権限	
取引仕訳の作成を有効化する	会計補助台帳の管理



重要

取引仕訳の作成はデフォルトでオフになっています。会計補助台帳の実装が完了し、Sandbox でテストするまでオンにしないでください。

1. [設定] で、[クイック検索] ボックスに「会計設定」と入力し、[会計設定] を選択します。

2. [取引仕訳の作成] をオンにします。

Flow Builder を使用した会計補助台帳ジョブのスケジュール

会計補助台帳ジョブをいつ実行して取引仕訳レコードを生成するかを指定します。

表 32 : 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計補助台帳ジョブを実行する	会計補助台帳の管理 または 会計補助台帳ジョブの実行
フローを作成する	フローの管理

会計補助台帳ジョブのスケジュールを設定する前に、次の前提条件を満たしていることを確認します。

- 取引仕訳の作成をオンにしている。
- Salesforce システム管理者であるか、次の要件をすべて満たしている。
 - 「会計補助台帳の管理」または「Run Accounting Subledger Job (会計補助台帳ジョブの実行)」権限セットが割り当てられている。
 - 「フローの管理」権限セットが割り当てられている。
 - デフォルトのワークフローユーザーである。
- 会計セットが少なくとも 1 つ有効になっている。

ジョブをスケジュールする前に、会計補助台帳ジョブを少なくとも 1 回手動で実行し、設定を検証して結果を確認することをお勧めします。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「フロー」と入力し、[フロー] を選択します。
2. [新規フロー]、[スケジュールトリガーフロー] をクリックして、[作成] をクリックします。
3. [スケジュールを設定] をクリックします。
4. 会計チームのニーズに合った開始日、開始時刻、頻度を入力します。毎日の頻度はライセンスに含まれる毎月の割り当てを上回るため、最初は週に 1 ~ 2 回以内のケイデンスにすることをお勧めします。パフォーマンスを最適にするために、営業時間外の時間を

選択し、会計チームや財務チームと相談して最適なケイデンスを判断することをお勧めします。

5. [完了] をクリックします。
6. ◦にカーソルを合わせて ⊕ をクリックし、[サブフロー] をクリックします。
7. [補助台帳ジョブ] を見つけて選択します。
8. 表示ラベルと、必要に応じて説明を入力し、[完了] をクリックします。

9. 変更内容を保存します。
10. フローの表示ラベルと、必要に応じて説明を入力し、変更内容を保存します。

11. 変更内容を保存します。
12. フローを有効にします。



注意

ジョブの完了には最大 2 時間以上かかる場合があります。

関連情報:

- [Salesforce 組織のデフォルトのワークフローユーザーの特定](#)
- [会計補助台帳ジョブの手動実行](#)
- [会計補助台帳ジョブのスケジュールに関する考慮事項](#)

会計補助台帳ジョブのスケジュールに関する考慮事項

取引とデータのニーズを評価して、会計ジョブを実行するタイミングを決定します。

表 33 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience

使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

ビジネスニーズに最適なスケジュールを判断するのに役立つ考慮事項をいくつか紹介します。

- 取引の大半はいつ行われるか? 取引の大半が月曜日から金曜日の間に行われる場合は、週末に毎週の会計補助台帳ジョブを実行するのが適切です。
- データの粒度はどこまで必要か? 週に 1 回ジョブを実行する場合、処理されるデータ量が増大しますが、粒度が低下する可能性があります。たとえば、月曜日に商品資金の US \$150 の支払を入力したとします。火曜日にその \$50 を返金し、木曜日にその資金をサービス資金に変更しました。日曜日にその週のジョブを実行すると、Salesforce ではサービス資金の \$100 という 1 回の支払が生成されます。
- ほとんどの会計チームは毎月 (またはもっと頻繁に) 帳簿を照合しているため、1 か月に 1 回以上会計補助台帳ジョブが実行されるようにスケジュールすることをお勧めします。たとえば、ジョブの実行を毎月 1 日、毎月最終日、またはデータの最終処理を行う猶予が必要な場合は月が始まってから数日後に設定します。

会計補助台帳ジョブの手動実行

補助台帳ジョブフローを実行して、取引仕訳レコードをオンデマンドで生成します。

表 34: 必要なエディションとユーザー権限

使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
会計補助台帳ジョブを実行する	会計補助台帳ジョブの実行

会計補助台帳ジョブの手動実行は、設定の変更をテストする場合に特に役立ちます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「フロー」と入力し、[フロー] を選択します。
2. [補助台帳ジョブ] をクリックします。
3. [実行] をクリックします。

会計補助台帳のデータの調整

会計データを生成後、必要に応じてソースレコードまたは資金割り当てを更新して調整します。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来のドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

支払レコードと費用レコードの調整種別

会計補助台帳では、ソースレコードを取引仕訳レコードから切り離して調整できます。ソースレコードが更新されると、それに応じて新しい取引仕訳レコードが生成されます。

表 35 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience

使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

時として、資金が長期間にわたって断続的に届くことがあります。あるいは、約束された資金が届かないこともあります。さらに、2 つの桁を逆さまに入力するといった単純ミスを犯すこともあります。

会計データの整合性は極めて重要です。作成したデータがそのまま維持されることが理想的ですが、調整が必要になることがあります。特定の調整シナリオに推奨されるアプローチをご紹介します。

スケジュールされた支払の変更

正確な会計を行うために 4 オブジェクトモデルを使用する場合、第二オブジェクトの金額の合計を主オブジェクトの金額と同じかそれ以下にしておくことをお勧めします。いずれかを変更した場合は、それに合わせてもう一方を更新します。

第二オブジェクトの金額の合計が主オブジェクトの金額を上回る場合、会計補助台帳では最大でも主オブジェクトの金額までしか取引仕訳レコードが生成されません。

支払済とマークされたレコードの調整

レコードが支払済とマークされていて、後で誤っていると判断された場合は、調整が必要になります。

(たとえば、入力中のエラーを修正するために)レコードをいつでも変更できますが、変更は必要な場合にのみ行うことをお勧めします。変更を行う前に、調整が許可されていることを会計チームに確認してください。

取引仕訳レコード自体は不変のため、修正する場合は、会計補助台帳で調整取引仕訳レコードが作成されます。

金額の修正

支払金額に誤りがある場合はレコードを編集して、変更内容を保存します。金額の増減や調整には、勘定に差額のデルタ金額が作成されます。支払日や資金の変更などの重大な変更があった場合、または支払が返金された場合は、レコードを逆仕訳してから、訂正した値の別のレコードを作成します。

3 または 4 オブジェクトの会計セットを使用している場合は、それぞれ独自の金額を指定した複数の資金勘定割り当てを使用できます。関連付けられている親金額を変更した場合、割り当ては自動更新されません。そのため、それぞれの子の金額を確認し、必要に応じて調整して合計が親金額になるようにします。

- 親レコードの下位にある割り当て種別のレコードの合計額が、親レコードと同額である必要があります。
- 4 オブジェクトモデルでは、第二オブジェクトの支払または費用種別のレコードの合計額が、主オブジェクトのレコードの総額と等しくなければなりません。

支払状況の変更

レコードが誤って支払済または取消済とマークされている場合は、ソースレコードの対応付けられた適切な項目を編集して、変更内容を保存します。この修正により、対応する逆仕訳の取引仕訳レコードが作成されます。

支払日の変更

支払日を変更するには、ソースレコードの対応付けられた項目を編集して、変更内容を保存します。この修正により、既存の取引仕訳レコードを逆仕訳する一連の取引仕訳レコードと、新しい支払日の一連の取引仕訳レコードが作成されます。

返金

負の金額を入力して支払済としてマークすることを除き、返金は他の支払済トランザクションと同じです。

返金が生じた割り当てと、返金が既存のレコードセットの一部かどうかを選択します。たとえば、返金(全額、一部)を、複数の支払がある支援や支払全体に適用できます。

支払済とマークされたレコードを逆仕訳するには、負の金額を指定した別のレコードを作成して返金を生成します。



注意

次の手順の[金額]、[支払済]、[支払日]、[支払方法]という項目名は、会計セットの項目です。会計セットの項目に対応付けたソースレコードの項目ではありません。次の手順を実行するときは、対応するソース項目の値を更新します。たとえば、[支払日]に対応付けられているソース項目が[支払日]である場合は、ステップ3で[支払日]項目を更新します。

1. 新しい支払または費用レコードを作成します。
2. 返金の[金額]に負の数を入力します。たとえば、US\$200の返金の場合は、「-200」と入力します。
3. [支払済]をオンにします。
4. [支払日]に、返金が処理された日付を入力します。
5. [支払方法]に、返金するために使われた方法を入力します。
6. 変更内容を保存します。

返金でも、通常の支払や費用と同じように取引仕訳レコードが生成されます。そのため、元の金額のレコードが引き続き存在する場合は、受取勘定に借方エントリも作成されます。この処理を回避するには、返金支払を作成した後でソースレコードの金額から返金額を差し引きます。たとえば、金額が\$100の商談があり、支援者が\$100の支援を行ったとします。その後この支援者から、すでに支払済とマークされている支援の返金を求められました。商談で\$100の返金を作成すると、商談金額が\$0になるため、受取勘定にエントリは作成されません。

妥当な場合には、支払を取り消して、元の支払の逆仕訳を行うこともできます。

支払の取消

取消は、支援の収益を支援の確定時に認識する発生主義会計では標準の操作です。取消が完了すると、約束された収益金額が維持される一方で、その収益金額が利用できなくなったことが認識されます。

時として、支援者が確約を履行できないため、支払を送信しないという通知を受け取ることがあります。支払を取り消すには、支払の受領と同じ手順を実行しますが、ソースレコードで[支払済]の代わりに[取消済]を選択します。支払方法を設定する必要はありません。

会計補助台帳では、支払済とマークされた支払と同様に、取り消し後に取引仕訳レコードが生成されます。ただし、取引仕訳レコードの取引種別と支払種別に取消とマークされ、収益を受け取っていないことがわかります。



注意

会計補助台帳では、取り消された支払は返金と同じではありません。取消と返金では、会計データを調整するために貸方処理と借方処理する資金が異なります。「[返金](#)」を参照してください。

取消と返金の違い

まだ受け取っていない確約済みの金額には取消を使用し、戻入して支援者に返す完了済みの支払には返金を使用します。

返金を使用して、特定の支援に関連付けられていない負の支払を入力できます。たとえば、異なる期間で処理された支払の場合や、最初に Salesforce で入力されなかった支払を追跡する場合に返金を作成します。

会計補助台帳では、どの調整を行うかによって作成される取引仕訳レコードが異なります。

調整の種別	作成される取引仕訳レコードの数	作成される取引仕訳レコードの種別	取引仕訳レコードが作成される勘定
取消	2*	貸方	デフォルトの未払勘定コード
		借方	デフォルトの償却勘定コード
返金	4	最初の支払の貸方	支払方法
		最初の支払の借方	資金名
		返金する支払の貸方	支払方法
		返金する支払の借方	デフォルトの未払勘定コード

* 支払を受領済みで、その一部を取り消す場合でも、会計補助台帳では返金と同様に、その支払の取引仕訳レコードが作成されます。

負の支払金額または費用金額 (逆仕訳)

取引仕訳レコードは簡単に削除できないため、会計補助台帳では負の支払金額または費用金額を使用して、返金や逆仕訳で処理します。

この処理によって借方金額と貸方金額が元に戻されます。たとえば、元の資金に借方、現金資金に貸方が記帳されます。「[会計補助台帳の用語](#)」を参照してください。

負の支払を使用すれば、ソースレコードの元の金額を超えている場合を含め、当初 Salesforce に入力されなかったレコードを返金できます。

**注意**

元のソースレコード(ある場合)は、支払済とマークされたままになります。

たとえば、一般資金に算入される現金 US\$100 のレコードを記帳したとします。会計補助台帳を実行すると、現金勘定に \$100 の借方取引仕訳レコード、一般勘定に \$100 の貸方取引仕訳レコードが生成されます。

翌日チームメンバーが、\$100 の支払は別のシステムを使用する別の部門に対するものであることに気づき、レコードを削除します。生成済みの取引仕訳レコードが削除されないため、逆仕訳を行うことにします。

チームメンバーが主オブジェクトレコードを削除する前に、逆仕訳を行って元の取引を帳消しにするには、次の手順を実行します。

1. 主オブジェクトと関連オブジェクトのレコードの金額を \$0 に変更します。

この変更により、会計補助台帳で既存の取引仕訳レコードに対する逆仕訳レコードが作成されます。

2. 会計補助台帳ジョブが実行されるまで待機します。
3. ジョブで逆仕訳の取引仕訳レコードが正確に作成されたことを確認します。
4. 主オブジェクトレコードと関連レコードを削除します。

割り当ての更新に関する考慮事項

会計セットのオブジェクトモデルに応じて資金割り当てを調整します。

表 36 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

3 または 4 オブジェクトモデルを使用している場合は、資金勘定割り当てのデータがどこに保存されているかに注意します。

- 3 オブジェクトの会計セットでは、第二オブジェクトで資金勘定のソースレコードへの割り当てと各割り当ての金額が表示されます。
- 4 オブジェクトの会計セットでは、第三オブジェクトで割り当ての金額と割り当て先の資金の両方が指定されます。第二オブジェクトでは、関連する一連の支払や費用(継続支援など)の個々の金額が表示されます。そして、こうした個々の金額がそれぞれ対応する割り当ての親になります。

現在のプロセスを使用して割り当て金額を管理します。合計割り当て金額が親レコードの金額と等しくなるようにして、会計レコードの生成時の一貫性を確保することをお勧めします。「[会計セットのオブジェクトモデル](#)」を参照してください。

会計補助台帳のデータのエクスポート

取引仕訳レコードの準備が整ったら、各自の会計システムにデータを取り込みます。



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来ドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

会計データの転送方法

レポートやインテグレーションを利用すれば、会計補助台帳で作成された会計データを難なく会計ソフトウェアに転送できます。

表 37: 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition

レポートを使用したエクスポート

会計データを CSV ファイルにエクスポートし、必要に応じてファイルを編集してから、エクスポート先のシステムにインポートします。インポートする前に会計データを確認したい場合にはこの方法を推奨します。

最新の会計データを取得するには、会計補助台帳ジョブを手動で実行して取引仕訳レコードを生成します。

必要なデータと書式設定に関する情報は、各自の会計ソフトウェアのドキュメントを参照してください。

インテグレーション

会計補助台帳のデータを会計システムに自動的にインポートする場合、数通りの方法があります。

- 指定した間隔で会計データを送受信するカスタムインテグレーションソリューションを開発する。通常は Salesforce 側で Apex を使用します。会計ソフトウェアによっては、同じサーバー上でコードを実行できます。
- システム間でデータを自動的に移行するミドルウェアソリューション (Mulesoft など) を使用する。
- Salesforce プラットフォーム上に直接構築されている会計システムもある。データの互換性を確保するために追加の開発が必要な場合があります。

プロセスをどの程度自動化するかはまったくの任意です。どこから始めればよいのかわからない場合は、特に会計補助台帳を使用したオートメーションの実績のある推奨パートナーについて Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。インテグレーションを設定するときには、次の考慮事項に留意してください。

- カスタムソリューションを構築すればインテグレーションを細かく管理できますが、誰かが作成して、長期的に管理する必要があります。ソリューションは 1 度開発すれば終わりというものではありません。
- ミドルウェアは設定と管理が簡単であることが多いですが、追加コストが発生します。さらに、ミドルウェアはどれも同じというわけではありません。一部のソリューションは複雑で、高度な専門知識を要します。

レポートおよびインテグレーションに関する考慮事項

会計補助台帳では、カスタムオブジェクトや項目を作成して取引仕訳レコードを生成できます。新しいカスタム項目をインテグレーションまたはエクスポートレポートに追加していることを確認します。

マルチ通貨を有効にする場合は、インテグレーションまたはエクスポートレポートに通貨関連の項目を追加できます。次の動作に留意します。

- Salesforce では通貨データ型の項目があるすべてのオブジェクトに通貨項目が追加されます。この項目にレコードの主通貨の通貨コード (USD、MXN、GBP など) が設定されません。
- 通貨データ型のすべての項目に、項目表示ラベルに「(換算値)」が付加された対応する項目があります。たとえば、会計補助台帳には [借方金額] 項目があり、マルチ通貨を有効にすると [借方金額 (換算値)] 項目が作成されます。

レコードに換算レートを表示するには、取引仕訳オブジェクトにカスタム項目を作成して、次の値を指定します。

- 名前: Exchange Rate (換算レート)

- データ型: 数式 (数値)
- 数式: CURRENCYRATE (TEXT (CurrencyIsoCode))

「[マルチ通貨の管理](#)」を参照してください。

レポートビルダーを使用した会計データのエクスポート

取引仕訳レコードの準備が整ったら、このデータを使用してレポートを作成し、コンマ区切り値 (CSV) ファイル形式でエクスポートします。次に、このファイルを各自の会計システムにインポートします。

表 38 : 必要なエディションとユーザー権限


使用可能: Lightning Experience	
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition	
必要なユーザー権限	
非公開フォルダーのレポートを作成、編集、削除する	レポートの作成とカスタマイズ
公開フォルダーおよび非公開フォルダーのレポートを作成、編集、削除する	レポートビルダーまたはレポートビルダー (Lightning Experience)
レポートをエクスポートする	レポートのエクスポート

取引仕訳レポートを作成する

1. [レポート] タブで、[新規レポート] をクリックします。
2. [取引仕訳] レポートタイプを選択して、[レポートを開始] をクリックします。
3. レポートが編集モードで開き、プレビューが表示されます。必要なデータが表示されるまでレポートをカスタマイズします。
4. [保存] をクリックして、レポート名を入力します。
5. 変更内容を保存します。
6. レポート結果を表示するには、[実行] をクリックします。

「[Lightning Experience でのレポートの作成](#)」を参照してください。

取引仕訳レポートをエクスポートする

1. [レポート] タブで、エクスポートするレポートの横にある  をクリックして、[エクスポート] を選択します。
2. [詳細のみ] をクリックし、[カンマ区切り形式 (.csv)] を選択します。
3. 文字コードを選択して、[エクスポート] をクリックします。

4. ブラウザーダイアログにプロンプトが表示されたら、場所を選択してファイルを保存します。

「[レポートのエクスポート](#)」を参照してください。

会計補助台帳の制限

会計補助台帳を実行する場合の制限を確認します。

表 39 : 必要なエディション

使用可能: Lightning Experience
使用可能なエディション: 会計補助台帳を含む Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition



注意

Salesforce は、コア Salesforce プラットフォームをベースとした会計補助台帳の提供を 2023 年 3 月から開始します。この記事では、同製品に関する情報を提供します。会計補助台帳の管理パッケージの詳細は、[Accounting Subledger Legacy Documentation \(会計補助台帳の従来ドキュメント\)](#) を参照してください。機関で使用するバージョンが不明な場合は、Salesforce システム管理者にお問い合わせください。

マルチ通貨

会計補助台帳では、すべてのデータがインテグレーションユーザーのデフォルト通貨に変換されます。この通貨は、書き戻しユーザーのデフォルト通貨と同じでなければなりません。Salesforce 組織が複数ある場合は、すべての組織のデフォルト通貨が同じであることを確認します。書き戻しユーザーとは、会計セットを保存するユーザーです。

会計セットの処理の制限

会計セットを作成して処理するときに、会計補助台帳ジョブが 1 か月あたり 30 時間以上実行されないようにしてください。1 か月あたりの制限を引き上げる必要がある場合は、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。「[データ処理エンジン定義の制限](#)」、「[データパイプラインの制限](#)」、および「[Data Cloud の制限とガイドライン](#)」を参照してください。

現在の利用状況を確認するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「データパイプライン」と入力し、[開始] を選択します。

会計セットの条件設定

処理するレコードを絞り込むために会計セットの条件設定で次の項目を選択することはできません。

- CloneSourceId
- IsDeleted
- LastReferenceDate
- LastViewedDate
- 住所や地理位置情報などの複合項目

次のデータ型の項目を選択することもできません。

- 住所
- Base 64
- 複合値
- 暗号化された文字列
- 場所
- long 型の文字列
- 時間
- URL